

日本写真家協会会報

NO.175

(2021. Mar.)

■創立 70 周年記念事業

「日本の現代写真 1985-2015」

■展望 新宿・銀座 大きく変わったギャラリー地図

JPS 70



Photo Izumi Goro

SIGMA

sigma-global.com

I series debut.



© 35mm F2 DG DN © 65mm F2 DG DN © 24mm F3.5 DG DN © 45mm F2.8 DG DN



1/400, F5.0, ISO100, EV-1.0, WB: 太陽光, IC: ハートモ/トーン

RICOH
imagine. change.

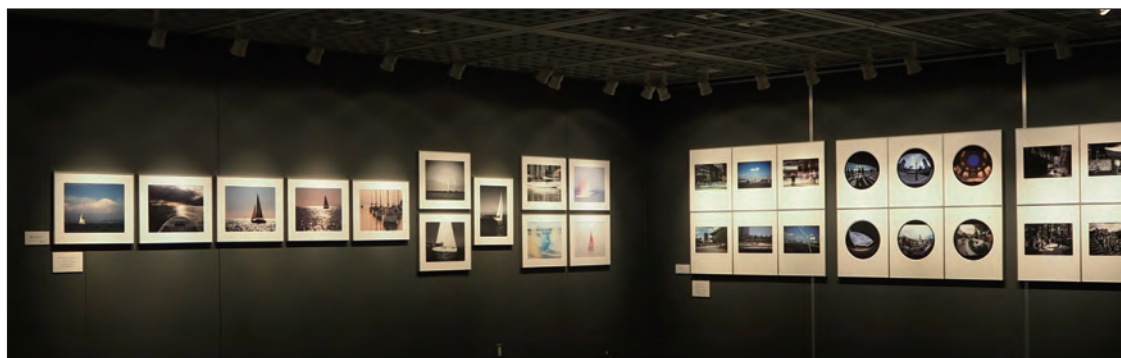
株式会社リコー / リコーイメージング株式会社 www.ricoh-imaging.co.jp

GR

■ Gallery	JPS ギャラリー 曾根原昇、菊池哲男、渋谷敦志、英 伸三 5 金子美智子、川廷昌弘
■ First Message	創立 70 周年の節目に 野町和嘉 11
■ Telescope	平成～令和に大きく変わったギャラリー地図 12 新宿・銀座のメーカー系ギャラリーの今
■ Exhibition	公益社団法人日本写真家協会 企画展「愛しい」開催 14
■ Zooming	写真の散歩道（新連載 2） 鳥原 学 16 「日本の現代写真 1985-2015」編纂に参加して
■ Workshop	著作権研究（連載 50） 野方英樹 18 授業目的公衆送信補償金制度と写真
■ Archives	「日本写真保存センター」調査活動報告（34） 松本徳彦 20 一戦後日本の日常を撮った 2 人の記録ー
■ Topics	賛助会員トピックス 22
■ Focus	日本写真家協会創立 70 周年記念事業「日本の現代写真 1985-2015」 24
■ Report	セミナー研究会レポート 30 2020 JPS フォトフォーラム オンライン報告「人と向き合う」 教育推進委員会報告「おやこ写真教室」 国際交流委員会ウェブサイト企画「表現者たち」Vol.1～3
■ Comment	写真解説 33
■ Message	Message Board 34
■ Infotmation	追悼＝名誉会員・熊切圭介 正会員・木村晃造、清水公代、 36 野沢敬次／経過報告／編集後記
■ Books	JPS ブックレビュー 38
■ Gallery	X ギャラリー 八田公子、吉澤士郎、中西 学 48 表紙・泉 悟朗、表 4・小松 稔

広告 案内

- | | | |
|----------------------|------------------------|---------------|
| ■ (株) シグマ | ■ (株) 堀内カラー | ■ (株) タムロン |
| ■ リコーイメージング(株) | ■ (株) アフロ | ■ (株) ヨドバシカメラ |
| ■ アイデムフォトギャラリー「シリウス」 | ■ (一社) 日本写真著作権協会(JPCA) | ■ 富士フイルム(株) |
| ■ (株) アフロ | ■ キヤノンマーケティングジャパン(株) | |



想いを写す、フォトギャラリー。

[sirius]
AIDEM PHOTO GALLERY

アイデムフォトギャラリー「シリウス」 <https://www.photo-sirius.net/>
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイデム本社ビル2F
TEL:03-3350-1211 FAX:03-3350-1240 時間:午前10時～午後6時 休館日:日曜



鍛えられた鉄の光——曾根原昇
写真展「関東牛刀ここにあり」



菜の花畑と爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳・五竜岳——菊池哲男

写真集『鹿島槍・五竜岳』

写真展「天と地の間に ～北アルプス鹿島槍ヶ岳・五竜岳～」



「ぼくはここにいるよ」—— 渋谷敦志

写真集『今日という日を摘み取れ Carpe Diem』

写真展「GO TO THE PEOPLES 人びとのただ中へ」



夕日隠れのモンロー —— 英 伸三
写真集『モンローの皺・ある城下町の行方』



浅縹（あさはなだ）——金子美智子

写真集『秘色 ひいろ』

写真展「自然美に写る日本の伝統色たち 秘色（ひいろ）」



松韻を聴く——川廷昌弘

写真集・写真展「松韻を聴く」

創立 70 周年の節目に

会長 野町 和嘉

1950 年に発足した JPS は 2020 年 5 月に 70 周年の記念すべき節目を迎えた。

当初記念式典も予定していた。経費削減のための抜本的な見直しが迫られている折り、年末の会員相互祝賀会での同時開催なら負担を軽減できると考えていたが、コロナ禍により流会となってしまった。一方、3 年越しの編纂作業により結実した記念写真史「日本の現代写真 1985-2015」は、今年 3 月の写真展開催に併せて出版(クレヴィス刊行)された。写真展開催も、首都圏への緊急事態宣言の再発令により一時は危ぶまれたが、幸い感染が減少傾向になったことで関係者一同安堵しているところである。

さて、フィルムからデジタルへと時代は移り、最近の約十年で劇的に進化したデジタル技術によって、写真を取り巻く環境は激変した。大半のメディアでデジタルへの移行が主流となり印刷媒体が衰退するなかで、写真家を取り巻く環境も様変わりした。極論すれば、今や“写真は誰にでも撮れ、どこからでも発信(発表)でき、タダで見られる時代”になってしまった、と言っても過言ではない。さらに、突如として世界を襲ったコロナ禍がもたらした混乱によって、写真家を取り巻く環境は更に厳しいものになった。

コロナ禍が終息した後どのような社会になってゆくのか、そこで写真家に何が出来るのか、どんな新しい展開が開けるのか、容易には見えてこない。私ごとであるが、毎年何回か出かけていた海外取材にも全く出られない憂鬱な時間の中で、20 代に撮影したモノクロームのネガを四十数年ぶりに見直してみた。65 点を選び出し今年 1 月に写真展を開催したが、古いネガをじっくり点検することで、旺盛な好奇心のままに夢中で走っていたあの

時代の自分を再発見できたことは新鮮で、コロナで沈んでいた気分には展望が開ける思いであった。

グローバル化したネットワークに便乗して、瞬く間に地球規模で拡散してしまったコロナ禍に翻弄された僅か一年の間に、人と人との距離感もすっかり変わってしまった。カメラを介した写真家と社会のありようも大きく変化した。人と人との濃密に接してゆく距離感でなければ写真家の仕事は成り立たない。そもそもマスク姿では人の表情は写せないのである。あらゆる事象が、おそらくコロナ以前に戻ってゆくことはないであろう。私生活の周辺でも人と気楽に出会うことがめっきり減った。たまに会ってもマスク顔ではデリケートな感情の機微など伝わらない。主に写真展のオープニングなどで日常的に交流していた私たち写真家同士の関係性も、やや希薄で微妙な距離感ができてしまっている事は否めない。

この先、さらに加速されて社会全般のデジタル化は進行してゆくだろう。しかし利便性の追求によるバーチャルには限界があるはずだし、人と人との肌のぬくもりが伝わらないようでは社会は崩壊してゆく。写真が社会でどのように位置づけられ変化してゆくのか見えないが、自身の表現をひたすら信じて前に進むしかないであろう。

中世にペストによる壊滅的な崩壊に見舞われたヨーロッパでは、それまで絶対的な価値観として君臨していた教会の権威が失墜し、崩壊した中から人間中心のルネッサンス文化が花開いた。コロナという地球規模で襲った災禍を乗り越えたその先には、これまでの常識を超える何かが間違いなく立ち上がってくるはずだ。折しも JPS70 年という節目のその先で、写真家は何を見るのだろうか、期待したい。

平成～令和に大きく変わったギャラリー地図 新宿・銀座のメーカー系ギャラリーの今

ショールームやサービスセンターに併設されていることの多い、いわゆるメーカー系のギャラリー。多くのメーカー系のギャラリーが集まる新宿・銀座エリアでは、景気の動向や都市開発の影響、そして感染症予防による外出自粛などを理由に、近年移転や合併をする動きが激しくなっている。メーカー系ギャラリーの動きをまとめてみた。

■新宿エリア

カメラ量販店や百貨店が多くある新宿西口は、エプソンイメージングギャラリー「エプサイト」が2019年3月に移転するまで、オリンパス、ニコン、リコー（ペンタックス）の4ギャラリーが顔を揃える、メーカー系ギャラリーの高密度エリアだった。

「エプサイト」が抜けた後も残った3ギャラリーは変わらず運営を続けているように見えるが、ニコン、リコーの両ギャラリーは、いずれも2020年に銀座にあったギャラリーを吸収して、それぞれ「ニコンプラザ東京 THE GALLERY」、「リコーイメージングスクエア東京」と改名して、東京のサービス拠点としての機能を高めた。また「オリンパスギャラリー東京」は、経営母体が2021年1月にオリンパスイメージング株式会社からOM デジタルソリューションズ株式会社になっている。いずれも同じ場所で運営されているものの、企業にとっての位置付けやギャラリーとしての機能が、大きく変わったと言えるだろう。

新宿の東口には、2017年1月に惜しまれつつ閉館したコニカミノルタプラザがあった。かつて東口には、コニカとミノルタの2つのギャラリーがあったが、両社が合併したのを機に、ギャラリー機能も集約され、誕生したのがコニカミノルタプラザだ。大小3つのギャラリースペースを備え、写真展だけでなく、さまざまな展示、イベントが催されていた。コニカミノルタは、カメラ事業をソニーに売却した2006年以降もギ

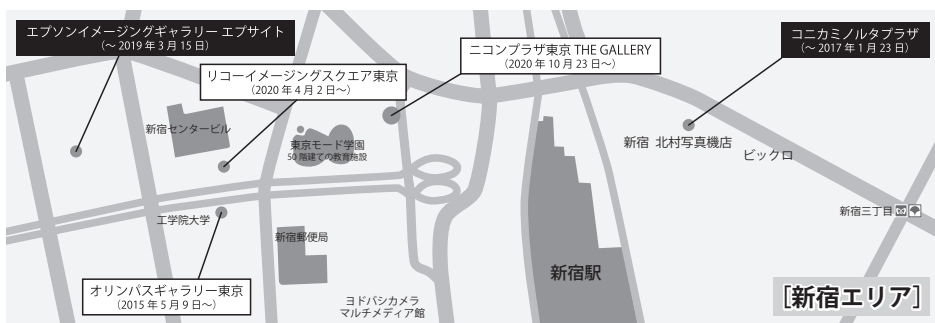


ャラリー運営を継続。その後10年以上、写真文化の発展に大きく貢献したギャラリーの一つだった。

現在、東口にはメーカー系ギャラリーは存在しないが、ビックカメラとユニクロとの共同出店による商業施設「ビックロ」があり、2020年7月にはカメラのキタムラが運営する「新宿 北村写真機店」がオープンして、多くの写真愛好家を楽しませている。「新宿 北村写真機店」では、オープン記念展覧会として「蜷川実花展 - 千紫万紅 -」がイベントスペース「Space Lucida (スペース ルシダ)」で開催された。今後も新宿の新しい写真の展示スペースの一つとなっていくことだろう。

■新宿御苑エリア

新宿御苑前から四谷にかけてのエリアにも多くのギャラリーが点在していることで知られている。その多くが独立系のギャラリーで、メーカー系ギャラリーは、やはり新宿、銀座に集中している傾向がある。企業が運営するギャラリーとしては、アイテムフォトギ



ヤリー「シリウス」をはじめ、堀内カラーが運営する「HCL フォトギャラリー新宿御苑」、カメラのキタムラによる「フォトギャラリーキタムラ」、プロラボのクリエイイトによる「富士フォトギャラリー新宿」があった。しかし、現存するのは「シリウス」だけで、いずれも2006～2007年に移転、閉館している。

新宿のギャラリーで、現在運営しているギャラリーは、いずれもビルの途中階にあるものばかり。路面店が少ないのが一つの特徴となっている。

■銀座エリア

銀座は画廊が多くあるという理由もあってか、新宿とは対照的にギャラリーも路面店が多い。また中古カメラ店なども多く、ギャラリー巡りをしていると写真に関わる人とばったり出会うことも珍しくない。

ギャラリーが集中しているのは、京橋から新橋に向かう銀座中央通りの周辺と数寄屋橋交差点を中心とした辺りだ。これに加えて最近では、丸の内エリアにも広がりを見せるようになってきている。「富士フィルムイメージングプラザ東京」が2018年4月28日に、「エプソンスクエア丸の内」が2019年5月30日にオープンした。

新宿に比べると、移転の激しい銀座。数寄屋橋交差点の角にあった「ソニーイメージングギャラリー」は、ソニービルの解体に伴って2014年7月に移転。移転先は銀座4丁目交差点角の銀座プレイスで、日産のショールームが入っているビルに、ソニーのショールーム、プロサービスなどが丸ごと移転した。

現在、ソニービルの跡地はソニーパークという名称の公園になっているが、2025年には新しいソニービルが完成する予定だ。

銀座通り周辺には、銀座1丁目に「富士フォトギャラリー銀座」、銀座3丁目に「キヤノンギャラリー銀座」がある。残念ながら、銀座4丁目角にあった「リコーイメージングスクエア銀座」が、2020年2月29日にコロナ禍の中、ひっそりと新宿に移転。また写真真社が運営する「ギャラリー・アートグラフ」(2020年10月31日移転)、「ニコンプラザ銀座」(2020年04月27日移転)も相次いで銀座から姿を消した。

数寄屋橋周辺では、「フレームマンエキシビションサロン銀座」が2020年1月28日に惜しまれつつ閉館。「EIZO ガレリア銀座」も2020年10月24日にショールームを大森の営業所に移し、ギャラリーは閉館となった。

銀座でもっとも新しいメーカー系ギャラリーとして誕生したのが、パナソニックの運営する「LUMIX GINZA TOKYO」だ。オープンした2019年4月20日で、「ライカ銀座店」の斜向かいに位置する。

数寄屋橋界隈では、有楽町そごうの跡地にビックカメラ有楽町店が2001年オープン。「富士フォトサロン」(2007年7月12日移転)、「コダックフォトサロン」(2008年2月5日移転)があって、「京セラ・コンタックスサロン銀座」が営業を終える2009年3月までは、メーカー系ギャラリーの超過密地点であった。

フィルム時代に隆盛を誇った富士フィルム、コダック、京セラ・コンタックスのギャラリーが姿を消し、ミラーレスカメラで勢いづくソニー、パナソニックがギャラリーを立ち上げた。しかし、パナソニックは新拠点を都内に移転することを発表し、「LUMIX GINZA TOKYO」はこの3月14日で閉館。銀座の街は、激動する写真業界を反映するような動きを見せる。

(記／出版広報委員：柴田 誠)



公益社団法人 日本写真家協会 企画展 「 愛 し い 」 開催

公益社団法人日本写真家協会（以下、JPS）主催の企画展として「愛しい」を開催した。好きなもの、興味のあるもの、魅力を感じたものへカメラを向けることから、多くの写真家はその道を歩み始めた。被写体への想いを表現し、伝えることが、プロ写真家の原点だ。原点に戻り「愛しい」というテーマで全国のJPS会員から募り19名の写真家が出展。4枚の組写真に込めた想いが受け取れる写真展を企画して開催。

ニコプラザ東京 THE GALLERY 2021年2月2日（火）～8日（月） 日曜休館

ニコプラザ大阪 THE GALLERY 2021年3月11日（木）～17日（水） 日曜休館

◆企画展の開催にむけて

企画の担当委員に話を伺った。（株）ニコイメージングジャパンよりJPSとして団体枠で写真展を行いますか？と声をかけていただき、企画委員会で企画展を行うことにした。前は2017年11月、ニコプラザ新宿 THE GALLERY にてJPS企画展「20世紀に活躍した貌」を開催した。

今回は、委員会から会員の方に写真提供してもらうのではなく、会員の参加型の企画展にして全国の会員から公募する形で行う事にした。公募するにあたり、企画展としてのまとまりを考えてテーマを持つ事により写真展がよりわかりやすいものになりたいと考えて

「愛しい」をテーマにした。

現在プロ写真家として仕事をしている会員も最初



ニコプラザ東京 THE GALLERY 展示風景

は、鉄道や風景や人が好きで写真を撮り始めたことが原点。これに戻って「愛しい」と思うものにカメラを向けてシャッターを切ることが写真家としての表現を再認識することになるのではないだろうか。

多くの写真家は依頼を受けて写真を撮っているが、被写体への想いを表現し、伝えることだけに専念し、それぞれの方が想う「愛しい」を表現してもらうことで写真展としてのまとまりも出てくるのだと思う。「愛しい」というテーマで公募し、三十数名の方から応募があった。被写体としたものは誕生、死、家族、愛、伝統文化などさまざま。19名の写真家が作品に込めた「愛しい」を受け取っていただければと思う。

また、偶然撮れた1枚の写真ではなくライフワークとして撮り続けていたり、テーマにあった写真4枚組で表現する事を見てもらいたい。

組写真は、同じテーマの写真をただ並べるのではなく1枚では表現出来ないものをどう作り上げていくのか。4枚を使う事により空間を表現出来ている物や時間を表現出来ているものなど多くの表現が見られるのも特長の写真展になっていると思う。また、想いがあるのもそれをどう伝えていくのかというのも大切であり、自己満足に終わらず、見る人に伝えるプロとしての意地も見てもらいたいところだ。

今はSNSで写真を発表している方も多くいるが、プリントした写真を見てもらいたいと思っている。SNSなどでは見ているモニターやデバイスにより明るさが違って見てもらいたい色で伝える事が出来なかったりする。また、想いがあるのもそれをどう伝えていくのかというのも大切であり、自己満足に終わらず、見る人に伝えるプロとしての意地も見てもらいたいところだ。JPSとしてプリントしたものを見てもらい写真家の想いを汲み取ってもらうことが大切な事だと思っている。

今回の写真展はコロナ禍での開催であるので、会場だけでなくJPSのホームページでVR写真展を公開し、より多くの人に見ていただく工夫をしている。
(<https://www.jps.gr.jp/2020newface/> 企画展「愛しい」VR写真展.htm)

◆出展者の想い

今回出展されている、小林みのるさんと後藤剛さんにお話を伺いました。

小林さんは、今回公募のタイトルを見てダイヤモンド・プリンセス号の事が思い浮かんだと。横浜に住んでいる事で色々な客船が入港すると撮影に行っていました。ダイヤモンド・プリンセス号を見送ったのがあとから思えば新型コロナに繋がる出港でした。戻ってきた時には、大黒ふ頭に接岸されて、新型コロナの悪者の扱われている事の寂しさが出港する時見送った

事がすごく愛おしい存在になりました。そんな経験もあり応募しました。出港する時と戻ってきた時に係留されている写真で時間を表す事が出来たと思います。



「ダイヤモンド・プリンセス号、あの愛おしい時間。」を出展されている小林みのるさん

後藤さんは、いままで何度もモンゴルに行き撮影をしていました。今回の写真展の公募で1枚でないのがすごく惹かれました。1枚ではなく4枚で表現出来るという事とテーマが「愛しい」というのも撮り続けているモンゴルの子どもたちにぴったりな事だと感じました。4枚で見せる上で気を付けた事は、組写真にしないで見せるという事でした。通常学校などでは、起承転結をしっかりと伝えることを教わります。しかし展開が同じような写真が並ぶ事はしたくありませんでした。それによって空間を大きく見せる事が出来たと思っています。



「Ta」を出展されている後藤剛さん

お二人のお話し通り、表現方法が違っているのがこの写真展の面白さではないだろうか。

◆出展者(敬称略)

飯田照明、内田雅子、大津茂巳、大屋徳亮、木谷基一、木村佳代子、金城真喜子、熊切大輔、後藤剛、小林みのる、佐藤秀明、三田崇博、平寿夫、中津川隆康、藤田修平、虫上智、山口規子、和田直樹、渡邊英昭

(取材・撮影／出版広報委員・川上卓也)

「日本の現代写真 1985-2015」編纂に参加して

鳥原 学（写真評論家）

Toriyama Manabu

◎年表のパーツを探す

本協会の創立 70 周年事業「日本の現代写真 1985 - 2015」展が、春の訪れとともに東京都写真美術館で開催される。この企画も 1968 年の「日本現代写真展」から数えると 4 回目になるが、考えるほどに貴重な取り組みだと分かる。これほど網羅的に写真の流れをまとめた試みは海外にも類例がないからだ。

例えば〈ジャーナリズム〉として、〈美術〉として、あるいは〈広告〉としての写真史というのは意外と編まれていたりする。しかし、それらを横断して写真文化の全体像を描こうとすれば、作業はかなりめんどろなものになる。写真家の活動記録、撮影機材の進化と市場の変化、出版と展示など発表メディアの消長、海外とのさまざまな交流、そして社会的な写真のブームなど、記述しておくべきことは山のように出てくる。

それに時代を経るごとに、写真を明確に分類することも難しくなっているように思われる。ジャーナリズムと美術における現在の写真表現を見比べてみれば、その質も評価もかなり重なり合っていることが分かるはずだ。また既によく知られたイメージでさえ、時間の経過によって社会的な理解の仕方が変わり、新しい意味が明らかにされることも多い。総合的な写真史を編むということは、単に古い出来事の確認にとどまらず、こうした解釈の変更を吸収しながら、文化的な位置づけをし直すことに他ならない。

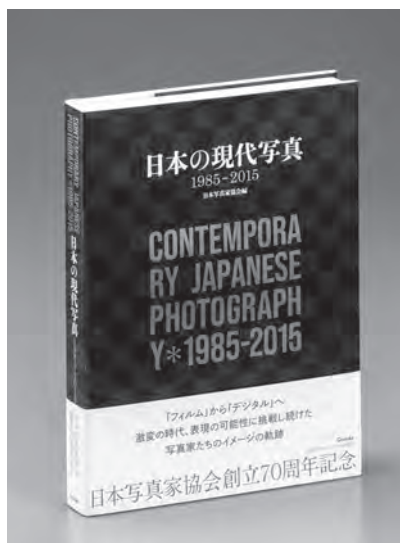
以上のような難しさは、今回のプロジェクトに参加させていただいて、肌身に感じたことだ。私の担当は年表の作成だったが、予想以上の労力を費やしてしまった。当初は一年余りをめどとしていた作業期間が倍ほどに掛かり、締め切りを大幅に伸ばしてしまった。ようやく昨年末になってメドが立ってみると、なんと 40 ページを超えるボリュームになっていた。そのため、関係者には大きな心配と迷惑をかけてしまったことは重々承知している。ただ、それでも抜けている事象も多いだろう。

その言い訳も含め、今回は作業のプロセスをかいつまんで書いておきたい。まず基礎資料として用意したのは

『アサヒカメラ』と『日本カメラ』の 31 年間分のバックナンバーで、その主要な記事指定し、協会の編纂委員に複写をとっていただいた。それを参照しながら写真集や写真展を中心に、さまざまなトピックスとニュースなどの出来ごとを抜き出した。さらにその裏付けをとるために、さまざまな資料にあたって確認する。そのため、他の雑誌や新聞などの逐次刊行物や書籍を求め、各種の公共図書館を利用した。記述すべき事象を確定するには、その背景と後に与えた影響を説明できることが必要なのだ。でなければ、年表というパズルを構成するピースにはなり得ない。

もちろん作業を進めるなかで計算外なことは多くあった。なかでもコロナ禍で想定通りの手順で進めなかったのは痛かった。国会図書館などには入場制限がかり、思ったように資料のリサーチができない。それをある程度フォローできたのは、やはりインターネットのおかげだった。

図書館にしても外部からオンラインで資料検索だけは可能だったから、それだけで正式な書誌情報は分かる。また国立美術館がまとめている展覧会についてのデータベースも、かなり使えた。図書館で確認できなかった本も古書店のサイトには細かな情報が掲載されていたし、研究者たちの論文などでも近年の解釈を確認できた。2000 年代を過ぎると情報発信



写真史「日本の現代写真 1985 - 2015」表紙

はネット中心へと移行するから、写真や美術関係のサイトや当事者のホームページで直接チェックできる。

とはいえ、やはり写真雑誌というベースが手元にあることの安心感は大きかった。写真の動向を踏まえたプロの編集者の目でトピックスが選ばれているから、情報の確度が高い。私自身もこれまで執筆してきたメディアなので、その限界もそれなりに分かっている。

ずいぶん前のことだが、写真雑誌を“中華井”に例えた編集長がおられた。バラエティ豊かな具材を、バランスよく盛り付けることが大切との意味だ。メインの一品で勝負する“かつ丼”では、嗜好の異なる写真ファンを引き付けることはできないのである。この網羅性が高い性格に対してさまざまな意見もあるが、過去を顧みる資料としてはかなりの強みがある。日本の写真史が継続的に編まれてきたのも、写真雑誌というメディアに活力があったからに違いない。良くも悪くも、写真雑誌史観だったと言えるかもしれないが。

それだけに将来に対する懸念も芽生えた。出版不況とカメラ市場の縮小のなかでこれ以上専門誌が消えていくとするならば、今後、網羅的に写真史をまとめようとするとき何を基準に据えることができるのだろうか。検索はしやすくなったものの、俯瞰的なジャーナリズムも必要ではないのだろうか。そんなことを感じながら、少しずつ作業を重ねた。

◎次世代へのバトンとして

インターネットの発達で助けられたことが、もうひとつある。コロナ禍でも、情報共有や打ち合わせについては支障がなかったことだ。年表制作は侯鵬暉さんと高橋義孝さんの2人にも手伝ってもらったのだが、ZOOMなどのオンライン用の会議ツールを使うことでより効率的に行えた。とくに侯さんは、昨年2月に台北の実家に一時帰国した後、すぐに緊急事態が宣言されたため、日本に戻れなくなっていたから、特に恩恵があった。

日本大学で学び「日本における写真展覧会の史的研究—戦後から写真美術館の成立まで」という博士論文を書いた彼は、所有する大量の資料をアパートに持っている。台北では彼の仲間たちが写真の図書館を作り、日本の資料もある程度は集めているので、ある程度のフォローはできたようではある。それでも、かなり不自由だったことは想像に難くない。

侯さんを年表制作に誘ったのは彼の知見を必要としたからだ。他に理由があった。いまや専門学校や大学などで写真を学ぶ学生の何割かは、東アジアからの留学生たちが占めている。いずれも学歴を尊ぶ地域なので、侯さんのように大学院に進む人も多い。最近では日本をベースとして活動し、実績を挙げている写真家も目立ってきている。次の時代の日本の写真史に名前を刻むのは、きっと日本人だけではない。その一人になるはずの侯さんには、

「日本の現代写真」ができていく過程を知ってほしいだったのである。

一方で、日本でも東アジア各地域の写真史への関心は確実に高まっていて、紹介される機会も増えてきた。思いつくままに挙げてみても崔仁辰の『韓国写真史』(青弓社、2015年)の翻訳出版があり、展示では「回望 島の記憶 1970～90年代の台湾写真」展(清里フォトアートミュージアム、2018年)、「中国現代写真の現場——三影堂摄影艺术中心」展(森美術館、2019年)などを挙げられる。これを見ると、時代ごとの表現傾向は日本のそれと共通性があるが、その背景にある文化や社会体制の違いが大きいことが理解できる。

朝鮮半島や台湾、あるいは中国東北部はかつて日本に支配されていた。しかも、その時代は世界的に見ても写真の普及期にあたっていた。日本が現地の写真文化に与えた影響は今に至るまできわめて大きい。つまり、これら地域の写真史は日本のそれを、別の角度から直接的に照らし出す鏡とも言える。近い将来、それを踏まえて東アジア全体の写真史が編まれていくはずだ。

侯さんのことに話を戻すと、彼は渋谷にある写真専門学校で教鞭をとっている。この1年は台北からリモートで授業を行う、ときには現地の展覧会場から中継したこともあった。学生たちの評判も良かったらしい。私たちより若い世代は、こうして各地の写真が地続きであることを自然に受け止めている。

そんな次の世代が編むだろう次の写真史のためにも、本協会の「日本の現代写真 1985 - 2015」が良き足場となることを願うばかりである。



『韓国写真史』青弓社、2015年



「回望 島の記憶 1970～90年代の台湾写真」展 図録表紙



「中国現代写真の現場——三影堂摄影艺术中心」展 図録表紙

授業目的公衆送信補償金制度と写真

野方英樹（SARTRAS 理事・事務局長）

著作権法は「公表された著作物は授業などで使用するために複製することができる（著作権法 35 条）」としています。2018 年の法律改正で、コンピュータなどでの使用（公衆送信）にも拡大され、使用者が補償金を支払う義務が法律に明記されました。著作物への権利制限に対して補償金制度が定められたのは画期的なことです。制度の運用が 2021 年度から始まるので、（一社）授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）の野方英樹理事・事務局長に解説していただきます。（著作権委員会）

1. 制度創設までの経緯

我が国では、教育での ICT (Information and Communication Technology) 活用が国際的に遅れているとされており、政府は GIGA School 構想を掲げ、その推進を図ろうとしています。その過程で、著作物利用が不可欠な教育の現場で、ICT 活用教育で著作物を公衆送信する際の権利処理負担が高すぎる（複製する場合は権利制限済）ことが問題視され、文化審議会著作権分科会での検討課題とされました。

結果として、ICT 活用教育の円滑な推進のために公衆送信利用について新たに権利制限対象とするものの、教育機関内で行われる複製に比べ、インターネットを介した利用では権利者が受ける経済的損失がより広範で大きいと考えられることに配慮し、教育機関設置者に補償金の支払義務を課す、という法改正が 2018 年 5 月（施行は 3 年以内）に行われました。

この法改正を背景に、2019 年 1 月、この授業目的公衆送信補償金の管理を行う団体として、写真、美術、文藝、音楽など様々な分野の著作権者、著作隣接権者が一堂に会し、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）が設立され、管理開始に向けた準備が進められることとなりました。

そこへ昨年の初頭から新型コロナウイルス感染症の感染拡大という事態となり、教育機関も著作物の公衆送信が不可欠なオンライン授業を行わざるを得ない状況となりました。これを受け、SARTRAS が特例的、緊急的措置として 2020 年度に限り補償金の額を 0 円とすることで文化庁長官への認可申請を行ったのにあわせ、改正著作権法が 4 月 28 日に施行され、授業目的公衆送信補償金制度は想定外の形でスタートすることとなりました。

その後 SARTRAS は、有償化に向けた教育関係団体等と調整を続け、2020 年 12 月に 2021 年度から適用される補償金の額の認可を受けました。4 月 1 日からは補償金の収受を開始します。

2. 授業目的公衆送信補償金管理の概要

（1）授業目的公衆送信補償金規程

認可を受けた補償金の額の骨子は下表のとおりです。

学校種	年額(在学者 1 人当たり)
小学校	120 円
中学校	180 円
高等学校	420 円
大学	720 円

この額は、年間を通して授業目的公衆送信を受ける在学者 1 人当たり適用する額を示しています。他の学校種には、例えば中等教育学校(中高一貫校)であれば、1～3 年生は 180 円、4～6 年生は 420 円といったように、学年や教育内容に合わせこの額を当てはめています。また、特別支援学校・学級、通信制教育等は半額となります。この他、公開講座や社会教育施設の授業のように単発で行われる授業を 1 授業（30 人単位。時間は問いません）あたり 300 円としたほか、年間を通じて授業目的公衆送信を行わず、単発的に利用する場合の取扱いとして、著作権、著作隣接権毎に 10 円ずつ加算して額を定め、公衆送信を受ける履修者の数を乗じて算出する規程も設けています。

これら補償金の支払い手続きを自動化した教育機関設置者向けオンライン受付システム「TSUCAO（つかお）」を、この 4 月、SARTRAS のウェブサイト開設します。

（2）補償金の分配

収受した補償金は、後述する共通目的事業に充てる基金と、SARTRAS の管理手数料とを控除した後、補償金の分配業務の委託を SARTRAS から受ける、分配業務受託団体（以下、「受託団体」）に送金し、受託団体を通じて権利者に分配されます。受託団体は、それぞれの分野毎（例えば、写真、美術、音楽、文藝など）に代表する団体をお願いしたいと考えております。

教育機関設置者から受ける補償金は、特に公立の場合、出所が税金であるため、分配については高度な透明性、適正性が求められています。そこで、受託団体となる条件も、例えば分配規程や管理手数料の率とその根拠をはじめ、様々な情報の公開義務が課されるなど、厳しくしています。また、この制度は団体メンバーだけを対象としたものではありませんので、いわゆる団体非所属の著作者への分配も受託団体には担っていただくことと

なります。

受託団体につきましては、SARTRAS からのご案内後、お申し出をいただき、SARTRAS の理事会にて決定することとなります。

分配の際の重要な資料となる利用報告は、教育機関設置者から提出いただきます。本来は、全ての利用についてご報告をいただきたいところですが、教員が多忙を極めていることは周知のことであり、著作権分科会報告書でも教育機関への過度な負荷とならないよう強く求められていることへの配慮から、当面は手続済設置者の中より学校種や教育内容を考慮しつつ、抽出した設置者に提出を求める、いわゆるサンプル方式によることとなります。

(3) 共通目的事業

この制度では、共通目的事業(法令上は「著作権及び著作隣接権の保護に関する事業並びに著作物の創作の振興及び普及に資する事業」)の実施が義務づけられています。補償金総額に対する一定率が法令によって定められ(2021 年度は執筆時点で未定、2020 年度は 2 割)、その額を事業のために支出することとなります。

こうした事業の実施が求められる理由は、利用報告をサンプル方式とすると、当然利用されても報告されない著作物がでてくることとなり、そうした分配されない権利者への配慮が必要と考えられるためです。このため、法令上も、すべての権利者の利益となる事業等とするよう定められています。具体的な事業内容は、今後 SARTRAS 内に学識経験者も加えた委員会を設置し、検討、決定していくこととなります。

(4) ライセンス

補償金制度ができたからといって、教育機関で何でも自由に著作物が利用できるようになったわけではありません。たとえ授業でも「著作権者の利益を不当に害する利用」は従前から変わらず利用許諾を得ていただく必要がありますし、職員会議など授業以外での利用も同様です。しかしながら、こうした利用も、教育側にとって権利処理の負荷が高いため、著作物利用が進んでないという状況がありました。

制度の検討の過程で、これら補償金制度対象外の利用についても、権利処理負荷の軽減を前提に適法化を進めたい、という教育側のニーズがあることがわかりました。このため、SARTRAS は、補償金管理とそれを補完するライセンスを用意し、可能な範囲で一本化した許諾窓口を教育側に提供する取り組みも進めています。ぜひみなさまにも、こうした取り組みへのご理解をいただき、権利の管理の委託をいただきたいと考えております。

3. 今後の課題と展望

今後の課題と展望として、以下の 2 点に触れて締めたいと思います。

(1) 分配について

前述のとおり、補償金の分配は教育機関設置者から提出される利用報告に基づいて行われます。この利用報告

で、いかに著作物が特定できるかが、正確な分配の決め手です。

ここに、写真特有の課題が潜んでいるように思えます。それは、出版物やウェブサイトに掲載された写真には、教員が利用報告に必要な情報を得るための著作者名などの情報が明示されていないケースが多いことです。今後の権利者側の努力として、出版物やウェブサイトへの掲載の際、利用報告に必要な情報の明示の慣習化がなされるような取り組みを推し進める必要があると考えます。

さらに、昨今は、教員が教材に利用可能な素材として、ネット検索で見つけた著作物を多く利用する傾向があります。どのような著作物を教材に利用するかによって、教育の質は左右されるといっても過言ではありません。このためにも、良質の著作物に簡単にアクセスできる仕組みが必要です。幸い写真分野には、JPS も構成団体である JPCA (一般社団法人 日本写真著作権協会) が進める「教育利用写真アーカイブ」という取り組みがあります。教育現場が安心して質の高い著作物を教育に使うことができ、しかも、出所が明らかであることから、補償金の分配にもつなげられる、という一石二鳥の取組みとして、今後の進展が大いに期待されます。

(2) 普及啓発について

教育に携わる人は著作権に関する認識が薄いか、とかく権利者側からは教育側を批判する声が聞こえてきます。もちろんそのようなことのないよう、SARTRAS としても教育関係者と協力して普及啓発を進めていきます。しかし、その一方で、権利者(団体だけでなく個々の著作者)のみなさまにも、この制度のことを十分に理解していただければと思います。紙面の都合でご紹介できませんでしたが、本制度のいわば公式ガイドラインともいえる「改正著作権法第 35 条運用指針(令和 3 (2021) 年度版)」にはぜひ目を通してみてください。この制度に関する相互の理解を進めることによって、よりよい教育と権利保護の両立が実現できれば、と願ってやみません。

改正著作権法第 35 条運用指針(令和 3 (2021) 年度版)

掲載 URL https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin_20201221.pdf

野方英樹(のがた ひでき)



一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 SARTRAS 理事・事務局長。早稲田大学政治経済学部卒業後、一般社団法人日本音楽著作権協会入社。以後 33 年余に亘りあらゆる支分権分野の音楽著作権管理に従事。2018 年 11 月、公益社団法人日本複製権センターに入社、事務局長代理を務め、2019 年 1 月、SARTRAS 設立時より現職。著作権法学会、国際著作権法学会会員。

「日本写真保存センター」調査活動報告(34)

—戦後日本の日常を撮った2人の記録—

松本 徳彦 (副会長)

戦後まもなく、米軍写真班だけでなくその家族も多数来日し、焼け野原だけでなく復興に汗水を流す日本人の逞しさが、彼らの目にどのように写ったかが数多く記録されている。日本人の勤勉さや親しみ、愛らしさが写真に写っており、親近感をもったようだ。また、農具市のような農家の年中行事では、子どもたちが主人公で、屈託のない笑顔とまなざしほど、いつ見ても記憶に残る一瞬である。写真は時代の鏡ともいわれる所以である。誰の目にも時代の記録ほど新鮮で興味深いものはない。

■市川市八幡神社・農具市 山崎美喜男

写真家協会の元会員の山崎美喜男さんから、自宅の物置にあった古い茶箱から「昭和三十六ぼろ市」と書かれたネガフィルムの束が見つかった。開けたところ酸っぱい匂いがしていたと連絡があった。山崎さんはビネガーシンドロームではと思い、写っている画像を確かめたところ葛飾八幡宮の農具市であることが分かった。当時の風俗や様々な衣装を着た人や服装など、歴史的・民俗学的資料として貴重だと判断して、山崎さんは元市川高等学校で教鞭をとっていた兄の山崎秀男に見せたところ、「これは郷土資料として役立つよ」と、残すことを勧められた。こうした経緯を経て、写真集『昭和三十六年市川市八幡神社 農具市』が出版された。(2020年10月)

写真集はB5判70頁で、写真(美喜男)34点と解説：山崎秀雄。農具市の歴史的考察が詳しく執筆されている。農具市の起源から縁日の露店の場割、地代、露店の配置図まで記され、歴史資料としても貴重なものとなっている。

撮影フィルムはわずか35ミリフィルム3本72コマであるが、移り変わる町々の家並みや伝統的な祭礼行事の記録として保存する価値があると判断し保存センターで収集することにした。

撮影者の山崎氏は1940(昭和15)年、千葉市八幡町で

生まれ、多摩芸術学園写真科を卒業。写真家杉村恒氏のアシスタントを務め、日本民芸や商業フォトの分野での活動が長い。日本写真家協会会友。

写真解説：①拝殿前の賑わい、②地球ゴマ原理のおもちゃ屋、③子供で賑わう金魚すくい屋、④さまざまな槌や土を固める工具類が並ぶ木工製品屋、⑤昔懐かしいカルメ焼き屋など、見ていて楽しい写真が多い。



①ぼろ市 拝殿前の賑わい



④ぼろ市 木工製品屋



②ぼろ市 地球ゴマ原理おもちゃ屋



③ぼろ市 金魚すくい屋



⑤ぼろ市 カルメ焼き屋

■戦後日本の暮らしを撮る

エリザベス・ウォルシュ・オハラ

終戦から3年後の1948年に来日した米国籍の日系アメリカ人のエリザベス・ウォルシュ・オハラさんが撮影した、故郷の西宮市夙川地区を写した写真フィルムがお嬢さんのモーガン・オハラさんから、夙川自治会の夙寿会カメラクラブに届いた。開けたところ6×6判のハッセルブラッドで撮られたフィルムが140本も出てきた。自治会では西宮市に相談し、戦後間もなくの暮らしぶりや今はなくなった珍しい光景が数多く出てきた。そこには空襲から難を逃れた古い町々や近隣の農村や漁港で働く人々から、農村風景や近郊の学校で写した子どもたちや運動する姿に近隣の人々などが、足を伸ばして京都の祇園祭や奈良の二月堂、宝塚歌劇場や文楽座などで写した写真、オハラさんがはじめて目にした日本の光景を、数多く写していた。そのフィルムを入手し、保存することにした。

フィルムフォルダーは多少黄ばみ、酸っぱい匂いもしているが、風通しの良い場所で酸味を取り除き、保存することにした。フィルムの現像処理もよく画像の痛

みもない状態だった。戦後の日本人の暮らしの一端を知ることが出来た。

敗戦した日本には、アメリカをはじめオーストラリアなど沢山の軍人が駐留軍として、1951年のサンフランシスコ講和条約締結まで駐留していた。

写真を撮ったオハラさんは1918年にサンフランシスコで生まれた。母は当地のインテリア・デコレーター、父はシスコのフェリービルの建築技師。オハラさんの夫はアメリカンプレジデント・ラインの神戸支店長として来日し、休日には夫妻で各地を旅し、写真を撮ったという。

モーガンさんは母の撮った写真を整理し、母の故郷夙川自治会とボストン美術館などに日本人の暮らしぶりを撮ったプリントを贈ったという。

今回の寄贈を受け収蔵したネガは、6×6モノクロ216本とネガカラー5本とアルバム4冊（755枚）でした。

写真は、1948年から54年までのもの約2000コマから選んだ。



奈良 二月堂



西宮の漁師たち



京都 祇園祭り



近隣の農家、家族総出で稲刈り



着物の着付け



淡路島で、人形浄瑠璃遣い

ニコン

卓越した光学性能で極めて高い解像力と、滑らかで美しいボケを実現した NIKKOR Z 50mm f/1.2 S を 2020 年 12 月 11 日発売

開放 F 値 1.2 の浅い被写界深度を活かした滑らかで美しいボケと極めて高い解像力を両立した大口径標準単焦点 AF レンズです。絞り機構を中心に、前後対称型にレンズ群を配置する理想的なレンズ構成を大口径「Z マウント」により実現。光を無理に屈折する必要がないため、極めて高い光学性能を発揮します。

ビント面から遠ざかるにつれて自然に変化する美しいボケの連続性と、後ボケの圧倒的な柔らかさで、ポートレートをはじめ、立体感のある表現を静止画、動画を問わず楽しめます。

希望小売価格：309,320 円(税込)



【お問い合わせ先】

株式会社ニコンイメージングジャパン

【製品に関する問い合わせ先】

ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル

TEL: 0570-02-8000

<https://www.nikon-image.com>

ソニー

進化するプロの創造性に最先端技術で応える フルサイズミラーレス一眼カメラ『α1』発売



ソニーは、有効約 5010 万画素の高解像度 AF/AE 追従最高 30 枚 / 秒※のブラックアウトフリー連続撮影を実現し、α™(Alpha™)として初めて 8K30p 動画撮影※に対応するフルサイズミラーレス一眼カメラ『α1』を発売します。本機は、解像力とスピード性能の高い次

元での両立と、撮影から納品までの高効率ワークフローを実現したプロフェッショナル向けの 1 台です。

『α1』は解像性能とスピード性能を高い次元で両立、広視野・解像度、240fps のリフレッシュレート対応の電子ビューファインダー※、動物への瞳 AF 対応※では従来の犬や猫などに新たに鳥が加わる等、高速・高精度・高追従 AF がさらに進化しました。次世代を見据えた高精細 8K30p 動画撮影※や、プロの現場で必要とされる即納を実現する従来機を大きく上回る通信機能、5G 対応端末との連携、多様な現場での使用を想定しさらに強化した信頼性・操作性などプロフェッショナルユーザーのご期待にお応えする進化を遂げています。

【発売日】 3 月 19 日

【価格】 オープン価格(市場推定価格 800,000 円前後)

https://www.sony.jp/ichigan/products/ILCE-1/feature_1.html

【お問い合わせ先】 ソニーマーケティング(株) 買い物相談窓口：メール・チャット・LINE ※24 時間対応

<https://www.sony.jp/support/inquiry.html>

電話：受付時間 月～金：9:00～18:00 TEL 050-3754-9555

タムロン

APS-C サイズミラーレス対応、世界初*1 17-70mm F2.8 標準ズームレンズ



17-70mm F/2.8 Di III-A*2 VC RXD(Model B070)は、APS-C サイズミラーレス一眼カメラ対応のソニー E マウント用大口径標準ズームレンズです。目指したのは、ワイドレンジと高画質の両立。APS-C 対応の標準ズームレンズとして世界で初めてズーム比 4.1 倍の焦点距離 17-70mm (35mm 判換算 25.5-105mm 相当)、大口径 F2.8 を実現しました。タムロン独自の手ブレ補正機構「VC (Vibration Compensation)」を搭載し、AI(人工知能)テクノロジーを活用することで、従来の VC 機構に比べて動画撮影により配慮した補正効果が得られます。サイズは APS-C サイズミラーレスとの相性を考慮し、

軽量・コンパクトを実現。最短撮影距離は広角端 0.19m、望遠端 0.39m を達成したほか、AF 駆動には高速・精密なステッピングモーターユニット「RXD (Rapid eXtra-silent stepping Drive)」を搭載。簡易防滴構造や防汚コートも採用するなど、多彩な機能を備えています。

*1 APS-C サイズミラーレス用大口径 F2.8 標準ズームレンズにおいて。(2020 年 11 月現在。タムロン調べ)

*2 Di III-A は APS-C サイズミラーレス一眼カメラ専用レンズの新名称。

【お問い合わせ先】

株式会社タムロン

タムロンレンズ お客様相談窓口 ナビダイヤル

TEL 0570-03-7070

受付時間 平日 9:00～17:00(土日・祝日・弊社指定休業日は除く)

ナビダイヤルをご利用できない場合は 048-684-9889 におかけください。※一般電話から市内電話料金にてご利用いただけます。

富士フィルムイメージングシステムズ

「FUJIFILM GFX100S」&「フジノンレンズ GF80mm F1.7 R WR」

「GFX100S」は、1 億 2 百万画素センサーや独自の色再現技術などにより、異次元の高画質を実現するミラーレスデジタルカメラです。「GFX100」から約 500 g 軽量化し、質量約 900g の軽量・コンパクトボディに、5 軸・最大 6.0 段*1 の手ブレ補正機構を備え、像面位相差画素をセンサー全面に配置したことで、高速・高精度な AF が可能。素早く正確に被写体を捉えるため、高い機動力を発揮します。さらに、防塵・防滴・-10℃の耐低温構造や快適な操作性も備えており、幅広いシーンに対応します。このほか、色調豊かで滑らかな 4K/30P の動画を撮影できる



など、高品位な映像制作も可能です。

GF レンズ 13 本目となる「GF80mm F1.7 R WR」は、80mm(35mm 判換算: 63mm 相当)の焦点距離を持つ大口径標準単焦点レンズです。ラージフォーマットセンサー搭載のデジタルカメラに対応するレンズとして極めて明るい開放F値 1.7 を実現し、なめらかで美しいボケ味を生かした撮影が可能。さらに、オートフォーカス(AF)機能も備えており、素早く正確に被写体を捉えることができます。また、開放F値 1.7 の明るいレンズながら、長さ 99.2mm・質量約 795g に抑え、優れた携帯性を実現。防塵・防滴・-10℃の耐低温構造も兼ね備えています。

*1「GF63mm F2.8 R WR」装着時

【お問い合わせ先】

富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

担当: 木内格志(JPS 担当)

TEL: 090-3202-8929

メール: tadashi.kiuchi@fujifilm.com

<https://fujifilm-x.com>

OM デジタル ソリューションズ

圧倒的な小型・軽量システムで高画質、
「OLYMPUS OM-D E-M1 Mark III」
好評発売中

オリンパス株式会社の映像事業部門は 2021 年 1 月 1 日「OM デジタルソリューションズ株式会社」として新しいスタートを切りました。今後も皆様のご愛顧をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



OM デジタルソリューションズ株式会社は、プロフェッショナルモデルとして圧倒的な小型、軽量化を実現しながら、防塵・防滴、耐低温設計など過酷な環境下でも安心して使える高い信頼性を備えた「OLYMPUS OM-D E-M1 Mark III」を発売中です。本機は対応レンズと組み合わせ最高 7.5 段の手ぶれ補正を実現した「5 軸シンクロ手ぶれ補正」、「5000 万画素手持ちハイレゾショット」や「ラ

イブ ND」、天体撮影でも高精度のオートフォーカスが可能になる新開発「星空 AF」など、プロの作品創りに応える多彩な機能を備えた高画質のミラーレス一眼カメラです。

【お問い合わせ先】

OM デジタルソリューションズ株式会社 オリンパスプロサロン 担当:

鳥居 TEL03-5909-0212 (10:00 ~ 17:30 土・日・祝日定休)

<https://www.olympus-imaging.jp/>

ケンコー・トキナー

トキナー初、富士フィルム X マウントレンズ「atx-m 23mm F1.4 X」「atx-m 33mm F1.4 X」2020 年 12 月発売!

トキナーは、ミラーレス用のコストパフォーマンスが高いレンズ群「atx-m」レンズシリーズに、トキナー初の富士フィルム X マウントレンズである「atx-m 23mm F1.4 X」「atx-m 33mm F1.4 X」を 2020 年 12 月 11 日に発売いたしました。F1.4 の大口径ながら、APS-C フォーマット専用レンズとして設計し、300g を切る軽さと、直径 65mm × 全長 72mm、フィルターサイズ 52mm という、コンパクトで軽量のレンズとして登場しました! 小型軽量ながらも、金属鏡筒の採用で、高い質感と持つ喜びを感じるクオリティー感を実現しました。AF モーターには、あらたに ST-M (ステッピングモーター) を採用、静かで速い AF を実現し、動画撮影にも最適です。さらに、絞りリングはクリックのないものとする事で、動画撮影時の絞り変化を、クリック音がしないなめらかな動作で、いっきに明るさを変化させることも可能です。23mm は 35mm 判換算 35mm 相当、33mm は 35mm 判換算 50mm 相当ということで、単焦点レンズとして非常に人気の高い焦点距離のラインナップとなりました。富士 X マウントのカメラをお使いの方に、ぜひおすすめいたします。



希望小売価格(税別)

atx-m 23mm F1.4 X 62,000 円

atx-m 33mm F1.4 X 55,000 円

【お問い合わせ先】

株式会社ケンコー・トキナー

広報・宣伝課 田原栄一

TEL: 03-6840-2970

メール: etahara@kenko-tokina.co.jp

<https://www.kenko-tokina.co.jp/>

グローバルソリューション サービス

イストテクニカルサービス株式会社(略称 IST)は、2020 年 10 月 1 日付をもって、親会社であるグローバルソリューションサービス株式会社(略称 GSS)を存続会社とする吸収合併を致しました。

グローバルソリューションサービスは、国内・海外の IT 機器メーカーの認定により、パソコンやタブレット、スマートフォンなど様々な機器を修理するマルチベンダー修理を提供しております。又、Apple 正規サービスプロバイダ、Microsoft パートナーとして、お客様へ安心なサポートをご提供しております。イストテクニカルサービスは「カメラと IT 機器のシナジー」を目指し、グローバルソリューションサービスの一部門として引き続きカメラ修理・カメラメンテナンスなどの技術サービスを提供して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

グローバルソリューションサービス株式会社

<https://www.gssltd.co.jp/>

グローバルソリューションサービス株式会社イストテクニカルサービス部

<https://www.isuto.co.jp>



(構成 / 出版広報委員: 川上卓也)

「賛助会員トピックス」への 寄稿ご案内

賛助会員の皆様には、会報に「賛助会員のページ」を設け、トピックスやお知らせなどの記事を掲載しています。貴社のトピックスやお知らせなどがございましたら、紙面の都合上あまり多くの文字数はとれませんが、貴社のニュース並びにお知らせなどをご寄稿下さいますようご案内申し上げます。

日本写真家協会創立 70 周年記念事業

JPS70

「日本の現代写真 1985-2015」



創立 70 周年を迎えた日本写真家協会（JPS）は、これまで 1968 年に催したわが国の写真表現の歴史を綴った「日本写真史 1840-1945」や「日本現代写真史 1945-1970」、「日本現代写真史 1945-1995」に続く 4 回目「日本の現代写真 1985-2015」の編纂と写真展を催すことにした。

2019 年春、創立 70 周年の記念事業をどんな内容のものにするかを検討し、協会が推進してきた「わが国の写真表現の歴史を編み、後世に残すこと」を企画目的とすることにした。まず協会内で進め方を協議し、会員を交えた協会外の有識者（歴史家、評論家、研究者、美術館関係者等）による編纂委員会を立ち上げ、記録として残せる出版物とするには、どのような視点で編纂するかを討議した。1985 年から 2015 年はフィルムからデジタルへと表現手段が変化したことにより、写真、そして映

像全般を取り巻く環境が劇的に変化した時代で、編集対象とする 30 年を 10 年ごと分類。候補作品の検討は新型コロナウイルス感染が拡大する前から始め、ほぼ集め終えた段階で一時中断した。収集範囲は、フィルムで撮影し、主として印刷媒体や写真展等で発表されてきた 1985～1994 年、新しいデジタル技術を取り入れたカメラと印刷技術によるプリントワークの 1995～2004 年、撮影・プリント技術のほとんどがデジタル化され公表される時代へと進んだ 2005～2015 年の 3 期に分け、この 30 年間に発表された印刷物や写真展等から候補作品を抽出し、何がどう変わったのか、変動した写真表現の可能性、特異性を検討しながらまとめた。写真展は 152 名（協会員 58 名、協会員外 76 名、物故者 18 名）の作品を展示し、同名の写真集をクレヴィスから発行した。

公益社団法人日本写真家協会副会長 松本徳彦



創立 70 周年記念「日本の現代写真 1985-2015」展

会場：東京都写真美術館地下 1 階

会期：2021 年 3 月 20 日（土・祝）～ 4 月 25 日（日） 主催：公益社団法人日本写真家協会 共催：東京都写真美術館 後援：文化庁



写真集「日本の現代写真 1985-2015」

編著：公益社団法人 日本写真家協会 発行所：株式会社クレヴィス

仕様：B5 判 280 頁(序文、図版、本文、解説、略歴、年譜)

価格：3300 円(本体 3000 円) 装幀：島田隆 発行：2021 年 3 月 20 日

「日本の現代写真 1985-2015」 出展作品から (順不同)



上田義彦 Ueda Yoshihiko
AMAGATSU、1990
東京、1990



新正 卓 Aramasa Taku 「遥かなる祖国・南米移民一世の肖像」より ブラジル・パラナコロニアルエスプランサ、1985



齋藤康一 Saito Koichi
丹下健三(建築家)
東京、1986



鋤田正義 Sukita Masayoshi
David Bowie “気”
アメリカ・ニューヨーク、1989



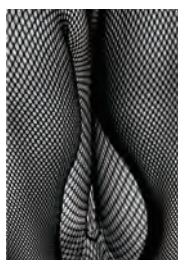
石内 都 Ishiuchi Miyako
「1・9・4・7」#8
1988-1989



荒木経惟 Araki Nobuyoshi
「冬の旅」
東京、1990



操上和美 Kurigami Kazumi
Carol Ohmura
東京、1988



森山大道 Moriyama Daido
下高井戸のタイツ
東京、1987



瀬戸正人 Seto Masato
「Living Room, Tokyo」より
東京、1987 ~ 1994

社会史・写真界史 年表

1985 年

田中角栄元首相、脳梗塞で入院。
日航ジャンボ機、御巣鷹山に墜落 520 人死亡。
レーガン、ゴルバチョフ米ソ首脳会談。

1986 年

米スペースシャトルチャレンジャー爆発。
チェルノブイリ原子力発電所で事故。
伊豆大島の三原山噴火。
キヤノンが電子スチルカメラ「RC701」を発売。
富士写真フイルム、小西六、カシオ、松下電器、シャープなどの電機メーカーからも発売される。

1987 年

国鉄分割民営化、JR グループ発足。
米 NY 株式市場で株価大暴落(ブラックマンデー)。

1988 年

「マル優」制度廃止。
リクルート疑惑事件。
イラン・イラク戦争停戦。

1989 年

昭和天皇崩御(1/7)、皇太子 昭仁が即位、平成と改元(1/8)。
消費税スタート、税率 3 %。

天安門事件。
東欧諸国社会主義政権崩壊、ベルリンの壁、撤去始まる。
連合発足、総評解散。
コンパクトカメラ「ビクミニ」をコニカが発売。

1990 年

ゴッホ「ガシエ博士の肖像」を日本企業会長が 125 億円で落札。
バブル経済崩壊。
東西両ドイツ、国家統一。
アドビが「Photoshop1.0」を発売。
東京都写真美術館が第 1 次開館。

1991 年

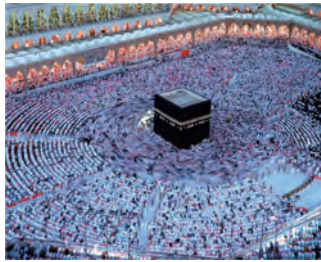
湾岸戦争始まる。
ベルシャ湾への初の自衛隊海外派遣。
ソ連共産党解散。
欧州連合(EU) 創設。
篠山紀信の宮沢りえ写真集「Santa Fe」ベストセラーに。
JCII が「JCII フォトサロン」、「JCII ライブラリー」を開設。

1992 年

PKO 協力法可決。
山形新幹線開通。
天皇・皇后、中国初訪問。
写真「ひとつば」展、「写真新世紀」展始まる。



浅田政志 Asada Masashi
消防士、「浅田家」より
三重・津、2006



野町和嘉 Nomachi Kazuyoshi
「メッカ巡礼」より
サウジアラビア・メッカ、1995



藤原新也 Fujiwara Shinya
「俗界富士」より
静岡・富士宮、1999



佐藤信太郎 Sato Shintaro
「東京 | 天空樹」
台東区・浅草、2010



森村泰昌 Morimura Yasumasa
「なにものかへのレクイエム」(思わぬ
来客 / 1945 年日本) 大阪、2010



広田尚敬 Hirota Naotaka
富士山と新幹線「日本ー + 日本ー × 2」
静岡・三島〜新富士、1994



三好和義 Miyoshi Kazuyoshi
ハワイのフラとダブルレインボー
アメリカ・ハワイ、2006



白鳥真太郎 Shiratori Shintaro
Yellow B. 東京・イメージスタジオ
109 目黒スタジオ、2014



志賀理江子 Shiga Lieko
開墾の肖像
宮城・北釜海岸、2008

1993 年

天皇・皇后、沖縄を訪問。
日本プロサッカー J リーグ開幕。

1994 年

英仏海峡トンネル開通。
ニューヨーク外為市場、1 ドル 100 円突破。
松本サリン事件。
関西国際空港開港。
大江健三郎、ノーベル文学賞受賞。
通信の自由化で「マルチメディア元年」。

1995 年

阪神・淡路大震災。
地下鉄サリン事件。
オウム真理教代表麻原彰晃逮捕。
マイクロソフト Windows 95 発売。
カシオがデジタルカメラ「QV-10」(25 万画素) 発売。

1996 年

薬害エイズ問題。
初の小選挙区比例代表並立制。

1997 年

臓器移植法成立。
京都議定書採択。
介護保険法成立。

1998 年

明石海峡大橋開通。
EU、単一通貨ユーロへの統合決定。
和歌山カレー事件。
金大中韓国大統領来日。
江沢民中国主席来日。
エプソンが「エプサイト」を開設。
書籍、雑誌などの印刷媒体の市場規模がこの年を境に縮小を始める。

1999 年

対人地雷全面禁止条約発効。
コソボ紛争。
情報公開法制定。
男女共同参画社会基本法公布。
国旗・国歌法成立。
自自公 3 党で連立政権。

2000 年

介護保険制度スタート。
携帯電話 5000 万台突破。
三宅島雄山噴火、全島民避難。
米大統領選挙ブッシュ勝利。
J-PHONE、シャープ製の携帯電話 J-SHO4 を発売。

2001 年



川島小島 Kawashima Kotori
「未来ちゃん」
新潟・佐渡島、2010



篠山紀信 Shinoyama Kishin
1988 Tokyo
東京・港区、1987



蜷川実花 Ninagawa Mika
「永遠の花」より、2003



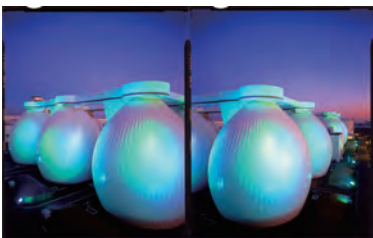
竹内敏信 Takeuchi Toshinobu
三原山噴火
東京・大島、1986



長倉洋海 Nagakura Hiromi
談笑するアフガン抵抗運動の指導者マースド
アフガニスタン・ファルカル、1988



星野道夫 Hoshino Michio
夕暮れの極北の河を渡るカリブー
アメリカ・アラスカ北極圏、1988



田村彰英 Tamura Akihide
「夢の光」
神奈川・横浜市鶴見区、1992



広川泰士 Hirokawa Taishi
「BABEL ORDINARY LANDSCAPES」#4
静岡・御殿場、2002



長谷川健郎 Hasegawa Kenro
炎天下の対NBC兵器訓練 東京・世田谷・
東京消防庁第三消防方面本部、2002

9.11 同時多発テロ事件。
米アフガニスタン空爆開始。
テロ対策3法案可決成立。

2002年

サッカーワールドカップ日韓大会開催。
小泉首相、初の訪朝、日朝平和宣言に調印。
デジタルカメラの総生産台数がフィルムカメラを抜く。
京セラがフルサイズのデジタル一眼サイズの
「CONTAX N DIGITAL」発売。

2003年

米イラク戦争開始。
宮崎駿の「千と千尋の神隠し」アカデミー賞受賞。
個人情報保護法成立。
有事法制関連3法成立。
イラクフセイン元大統領拘束。

2004年

陸上自衛隊にイラク派遣命令。
裁判員法成立。
有事法制関連7法案成立。
普天間基地の米軍ヘリ、沖縄国際大学に墜落。
米イラクに大量破壊なし(米政府調査団公表)。
スマトラ沖大地震。
米ハーバード大学生が「FaceBook」サービスを開始。

2005年

京都議定書発効。
JR福知山線で脱線事故。
郵政民営化法案成立。
動画共有サイト「YouTube」がサービスを開始。

2006年

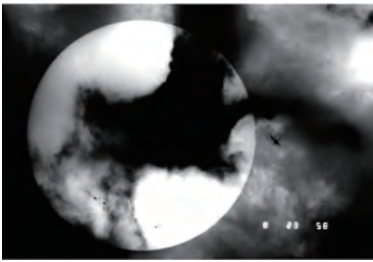
普天間基地移設と米海兵隊の一部グアム移転に合意。
改正教育基本法成立。
米「Twitter」のサービス開始。
デジタルの化の進展によって写真業界の再編進む。
「アジア・フォトグラファーズ・ギャラリー」(APG)が福岡に開設。

2007年

公的年金の加入記録の不備5000万件が発覚。
長崎市伊藤一市長銃撃され死亡。
国民投票法成立。
沖縄で11万人の県民大会。
アップルがスマートフォン「iPhone」を発売。
グーグル「Google ストリートビュー」サービス開始。

2008年

トヨタ自動車、GMを抜き生産台数世界一に。
リーマンショック。
米大統領選、オバマ氏が当選。
キヤノンがデジタル一眼「EOS5Dmark II」を発売、静止画と動画を



川田喜久治 Kawada Kikuji
太陽黒点とヘリコプター、「ラスト・コスモ
ロジー」より 東京、1990



英 伸三 Hanabusa Shinzo
橋を渡る花嫁、「上海放生橋故事」より
中国・上海、1993



坂田栄一郎 Sakata Eiichiro
エディー・ブー(自然保護活動家)
アメリカ・ハワイ、2003



本橋成一 Motohashi Seiichi
ステパンさんの豚
ベラルーシ、1992



田沼武能 Tanuma Takeyoshi
無料給食が楽しみで学校に通う子ら
ハイチ、1995



大石芳野 Oishi Yoshino
家が破壊されてテントで暮らすイヴァデヤ
(6歳) コソボ、1999



木之下 晃 Kinoshita Akira アルフレッド・ブレ
ンデル(ピアニスト)ー花を世界に向かって聞かせ、そ
して褒めたい、「石を聞く肖像」より 東京、1996



宇井真紀子 Ui Makiko
クリムセ(弓の舞)
北海道・日高町、1992



細江英公 Hosoe Eikoh
ひまわりの歌 アメリカ・コロラド州
スノーマス、1992

同時に録画する。

パナソニックが世界初のミラーレス一眼レフ「LUMIX DMC-G1」を発売。

2009年

オバマ大統領、プラハで「長期的に核兵器のない世界」

を目指すと演説、ノーベル平和賞受賞。

北朝鮮がミサイル発射(日本上空を通過)。

新型インフルエンザ流行、WHO はパンデミック(世界
的大流行)と判定。

民主党が大勝し政権交代、鳩山由紀夫内閣誕生。

2010年

ハイチで M7.0 の大地震発生。

日本航空、会社更生法適用申請。

平成の大合併終結。

シベリア抑留者法成立。

東北新幹線、新青森まで全線開通。

アップルがタブレット「iPad」を発売。

フランスのパロットが空撮用のドローン「ARDrone」を発売。

2011年

アラブの春、エジプトのムバラク大統領辞任。

東日本大震災。三陸沖震源 M9.0。津波で岩手、宮城、福島 3 県壊滅
的被害。

東京電力福島第 1 原発で電源喪失による大事故発生、炉心溶融。

「原子力緊急事態宣言」発令。チェルノブイリ級の「レベル 7」へ修正。

タイ、バンコクで大洪水。

TPP(環太平洋連携協定)参加の意向。

大阪維新の会の橋下徹が市長、松井一郎が知事で当選。

2012年

石原慎太郎東京都知事、尖閣列島の一部を都が買収の意

向表明、国有化へ。

沖縄普天間基地にオスプレイが配備完了。

2013年

マイナンバー法成立。

2020 年五輪、東京開催決まる。

消費税 5%から、8%に引き上げる方針を決定。

特定秘密保護法成立。

2014年

国際宇宙ステーション(ISS)の船長に若田光一が日本
人として初就任。

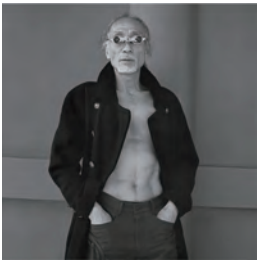
防衛装備移転三原則を閣議決定。内閣人事局設置。

ユネスコ「富岡製紙場と絹産業遺産群」世界文化遺産に
登録。

岐阜・長野県境の御嶽山噴火、登山者 58 人死亡。

青色 LED 開発の赤崎勇、天野浩、中村修二がノーベル
物理学賞受賞。

「写真集食堂めぐたま」東京・広尾にオープン



鬼海弘雄 Kikai Hiroh
舞踏家
東京・浅草、2001



大西みつぐ Ohnishi Mitsugu
「WONDER LAND 1980-1989」より
東京・江戸川区西葛西、1986



森住 卓 Morizumi Takashi
湾岸戦争の子どもたち
イラク・バグダッド、1998



前川貴行 Maekawa Takayuki
争うハクトウワシ
アメリカ・アラスカ、2008



熊切圭介 Kumakiri Keisuke
大横川、「運河」より
東京・江東区、2008



岩合光昭 Iwago Mitsuaki
ピリーヌ 4 オ
クロアチア・ドゥブロヴニク、2013



清水哲朗 Shimizu Tetsuro
「BURGED」より
モンゴル・バヤンウルギー県、2011



佐藤時啓 Sato Tokihiro
光一呼吸 #145 I, II
Koto-ku Aomi、1992



水谷章人 Mizutani Akito
飛翔
東京・辰巳国際水泳場、2012

2015 年

天皇・皇后が太平洋戦争激戦地パラオを慰霊訪問。
選挙権年齢 18 歳以上に引き下げた改正公職選挙法成立。

世界記憶遺産にシベリア抑留者記録、東寺百合文書、中国が「南京大虐殺」資料も登録。
日韓の外相が日本軍「慰安婦」問題で合意。

公益社団法人日本写真家協会創立 70 周年記念「日本の現代写真 1985-2015」

監修・田沼武能 編纂・飯沢耕太郎、上野修、金子隆一、関次和子、
鳥原学、多田亜生、野町和嘉、松本徳彦、山口勝廣。
委員・熊切圭介、飯島幸永、島田聡、加藤雅昭、足立寛、小池良幸、
安藤豊、内堀タケシ、木村正博、寺師太郎、永井勝、柚木裕司。

〈特別協賛〉

キヤノンマーケティングジャパン(株)

凸版印刷(株)

(株)ニコン

(株)ニコンイメージングジャパン

富士フイルムイメージングシステムズ(株)

(株)ヨドバシカメラ

〈協賛〉

(株)アイデム

エプソン販売(株)

OM デジタルソリューションズ(株)

(株)キタムラ

清里フォトアートミュージアム

(株)ケンコー・トキナー

(株)宏栄

(株)コスモスインターナショナル

(株)シグマ

(株)写真弘社

(株)セコニック

ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ(株)

(株)日経ナショナルジオグラフィック

(株)フレームマン

(株)山田商会

リコーイメージング(株)

共進倉庫(株)

(株)東京印書館

PGI

セミナー研究会レポート

◆ 2020 JPS フォトフォーラム オンライン報告 ◆

「人と向き合う。」

2020年11月21日配信開始

講師：榎並悦子、白鳥真太郎、渡辺達生

進行：佐々木広人

例年東京の有楽町朝日ホールで行っていたJPSフォトフォーラム。本年は新型コロナウイルス蔓延などの影響により開催を断念致しました。しかしただ中止にするのではなく毎年JPSフォトフォーラムを楽しみにして頂いている写真愛好家の方々に何とか違う形でも写真の楽しみをお届けできないかと考え、新たに公式の日本写真家協会 Youtube チャンネルを立ち上げ、そこでオンラインでフォトフォーラムを配信することになりました。

毎年好評を頂いている複数の写真家によるクロストークのコーナーをピックアップし事前に番組として大手町にあるヒマナイヌスタジオにて収録を行いました。配信開始日は11月21日。今回のテーマは「人と向き合う。」です。

「人」を題材にしたジャンルの違う写真家がどんなテクニックで人を写すのか、魅力を引き出すのか、関係性を構築していく

のかなど「被写体と真摯に向き合って撮る意味」を語り合っていました。出演いただいた写真家は榎並悦子さん、白鳥真太郎さん、渡辺達生さん。ドキュメンタリー、



広告、グラビアを主なフィールドとするお三方の撮影の裏側や思いはそれぞれ興味深く、トークも大変白熱しました。そんな魅力的な内容を軽快に引き出して進行していただいたのは『アサヒカメラ』元編集長佐々木広人さん。話も大いに盛り上がり気がつけば1時間半の内容の詰まった番組となりました。配信後視聴回数も約1,600回(12月18日現在)にのぼるなど多くの方に視聴し楽しんでいただけています。配信は好きな時に見られるだけではなく、今までご覧頂けなかった遠方の方やタイミングが合わなかった方など広く多くの方に写真の楽しみを伝える手段となっています。今後も様々な企画などを配信していくことで、より写真業界を盛り上げていきたいと考えています。

※引き続き「2020 JPS フォトフォーラム オンライン」はお楽しみ頂けます。Youtubeの「公式 公益社団法人

日本写真家協会チャンネル」にアクセスしてご覧ください。

(記／企画担当理事・熊切大輔、撮影／川村容一)

◆教育推進委員会報告◆

おやこ写真教室

2020年11月28日(土)

銀一スタジオショップ イベントスペース 参加者：3組6名

講師：水本俊也(会員)

6歳以上の子どもから成人までの方とその家族を対象に、教育推進委員会では「おやこ写真教室」を今年度事業の一つに計画した。当初、5月下旬に開催のJPS展のイベントとして、東京都写真美術館で実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見送っていた。

9月、コロナ感染者の動向を踏まえて、教育推進委員会では、11月28日の実施を再度計画した。会場は、銀一(株)の協力を得て、中央区月島の銀一スタジオショップ イベントスペースで開催した。

参加者の新型コロナウイルス感染リスクを避けるため、10組20名を上限に募集し、キャンセルなどもあり、開催当日は3組6名の参加であった。

会場設営の時点から、スタッフの検温、使用するカメラ・ストラップ、机・椅子、靴裏まで、徹底したアルコール消毒を行った。開場前から講師スタッフ全員は、マスクにフェイスシールド、ゴム手袋を着用し、再度アルコール消毒を施して参加者を迎えた。参加者にも検温と問診、徹底した消毒をした後、入場していただいた。この消毒は入室する度に行った。

今回は、キヤノンマーケティングジャパン(株)の協力で、デジタル一眼レフカメラ Canon EOS Kiss X8i 標準ズームレンズセットとマクロレンズ、コンパクトブリッダーを借用して、講師の水本俊也会員による、1時間目「カメラの使い方と撮影ポイント」から定刻に始まった。参加者は、水本講師の南極の写真のスライドショーとトークに、真剣な眼差しで見入っていた。続いて午前中の2時間目は、「野外撮影実習」として、月島もんじゃ通りで、安全面を配慮しながら、自由に撮影できるよう講師とスタッフが



同行して野外撮影を行った。参加者各自昼食を済ませ、午後から3時限目は、室内撮影「テーブルフォト講習会」として、LED ライトとレフ板を使用し、菓子やフィギュアをマクロレンズで撮影。参加者は、近接撮影の日ごろと違う前後のボケに戸惑いながら、「もっと全体にピントを合わせるには、どうすればいいんですか?」と、被写界深度の質問もあり、スタッフの委員が丁寧に手解きをする場面もあった。テーブルフォトでは、新鮮で新たな発見もあったようだった。



3時限目終了後、銀一スタジオショップの協力で、急速スタジオセッティングして、親子で「ポートレート撮影会」を体験した。親子で交互に撮影して、撮る側、撮られる側ともに笑顔で溢れ、親子の絆を深める写真の力を見てとれた。

4時限目は、参加者が今日撮影した「作品講評会」。撮影者がカメラのモニターを見て作品をセレクトし、カメラを会場の大型モニターに接続して、作品の講評を委員と講師で行った。「写真はプリント鑑賞」を大切にすることも伝えるため、最後に、キヤノンコンパクトプリンター Canon SELPHY-CP1300 を使用して、ポストカードサイズに各2枚ずつプリントアウトして、机の上に並べて全員で「作品鑑賞会」を行った。子どもの撮影した斬新な視点や、写真につけられたタイトルへの思いに驚く場面もあった。

松本副会長も3時限目より来場し、写真を撮ることで新たな発見や、子どもがファインダー越しに物を見て興味を引く姿など、写真のもつ大切さを挨拶の中で話した。

終了時、記入いただいた参加者からのアンケートでは、全員から大満足で「また参加したい」「次回は運動会の撮り方を教えてほしい」など多くの要望の回答をいただいた。

今回の「おやこ写真教室」の参加者は、子どもが7歳から9歳であったが、成人の方とその家族の参加もできる企画だ。時を記録して形に残す写真が、親子にとって身近で大切であることが印象的だった。

今後の写真教育推進事業において、「写真の大切さ」を啓発する目的からも、今回実施した「おやこ写真教室」から得るものが数多くあった。

（記・写真／教育推進委員・安藤 豊）



◆国際交流委員会ウェブサイト企画◆

「表現者たち」Vol.1 ～ 3

新型コロナウイルスの感染拡大で、シンポジウムや講演会などの形態の企画開催が難しくなった。そこで従来のイベントに代えてウェブサイト上で、国際的な関心や共感を呼ぶテーマに取り組む写真家とその作品を紹介している。JPS ホームページの「イベント・セミナー」からご覧いただけます。

Vol.1

「黒人差別撤廃への序章 伝播する叫び」

原題「マイクチェック」(Mic Check)

「Black Lives Matter (黒人にも生きる権利が!)」の記録 2014 ～ 2020 年

ロバート・ゲルハート
(Robert E. Gerhardt, Jr.)
(ニューヨーク市在住写真家)
訳：井上佳子

初回は、ニューヨークで「ブラック・ライブズ・マター (Black Lives Matter)」をテーマに写真を撮り続けているフリー写真家のロバート・ゲルハートさんを取り上げる。コロナに揺れる中であってBLMもまた世界に響き渡ったテーマだ。モノクロフィルムで撮影し暗室でプリントを焼き、そのプリントをスクリーンでデジタイズして作品を仕上げるというスタイルも興味深い。



われわれは黙っていない (2014 年 11 月 25 日、ニューヨーク市、ユニオンスクエア)

【プロフィール】

ニューヨークに拠点を置くフリーランスのドキュメンタリー写真家、フリーランスライター。全米報道写真協会会員及び、香港の外国特派員クラブ不在会員。1999 年、米マサチューセッツ州ウースターのホーリークロス大学卒 (人類学 / 社会学および美術史の学士号取得)。2007 年には、マサチューセッツ州ケンブリッジにあるレズリー大学・芸術・デザイン大学院で写真の修士号を取得。

作品は、北米、ヨーロッパ、アジアで数多くの個展やグループ展に出品されている。ニューヨーク市立博物館、ニューヨーク歴史協会、アラブ系アメリカ人国立美術館などに写真が所蔵されており、私的なコ



レクションとしても収集されている。

英高級紙「ザ・ガーディアン」、オンラインニュースマガジン「ザ・ディプロマット」、米高級紙「ニューヨーク・タイムズ」、米オンラインメディア「ハフィントンポスト」、米誌「ニューズウィーク」、イスラエル紙「ハアレツ」、「南ドイツ新聞」などのメディアなどでも写真が発表された。市民権と人権、宗教、報道の自由などをテーマとする著作もある。香港の英字紙「フリープレス」、「ザ・ディプロマット」、オランダ紙「ザ・コレスポンデント」、米大衆紙「ブルックリンレール」には、自身の作品を紹介する記事が掲載された。

Vol.2

「写真を通して日中文化交流を」

文・鳥里烏沙(JPS 会員)

写真は最も直観的なメディアとして、人々に真実を伝えることが最初の目的でしょう。来日してから20数年がたち、人生の半分を日本で暮らしていることになります。仕事の基盤は日本に置きながら、毎年数回ほど祖国である中国のほとんど普通の人が行かないところ、いわば辺境の地を撮影・取材してきました。時々、現地の関係組織に招待され、日本の写真家たちと一緒に撮影の旅に出かけることもあります。中国の自然と文化及び人々の暮らしを紹介する写真展を20年前から毎年行ってきました。また、日本の美しい自然と豊かな文化を中国に紹介するため、中国でも数回、写真展を開きました。会期中は、どちらの写真展にも大勢の来場者があり、中国と日本の写真家が撮影した写真作品を鑑賞し、大変な賑わいを見せていました。さらに活躍していくため、数年前には日本と中国の写真界の有識者同士が日本中国友好写真家協会(JCFPS)を設立し、一般社団法人として認可されました。今は中国の写真家関連の協会とも連絡および新しい関係を作り、協力を得ています。

山岳写真家。1967年5月、中国四川省生まれ。主に油絵や撮影など視覚芸術の創作活動をしている。また民族・民俗学、植物学など研究している。20数年来、1年の半分近くはチベット及び中国西部の秘境を回り、多角的な視点で捉え創作活動をしていると同時に



麻鳥(ma niao)ミャオ族村の錦鶏踊り



に、チベットカム地方の山々についての調査も継続。また、中国西部のチベット高原の厳しい所に小学校を建設することや、日本の文化や風土を中国に紹介する写真展も企画実行し、日中文化交流のかけ橋の役を果たして、幅広く活動している。現在、特定非営利活動法人中国少数民族文化教育基金会理事長、一般社団法人日本中国友好写真家協会理事長、横断山脈研究会会員など。

Vol.3

「聖なる土地の光を追って」 写真家・井津建郎氏

インタビュー・構成：石井真弓、佐藤仁重

米国ニューヨークを拠点とする写真家井津建郎氏は、2021年、NY在住および写真活動50周年を迎えます。井津氏の来日に合わせて、ライフワークとしてきた「聖地」の撮影、大型カメラやプリントに込める思い、ニューヨークの写真ギャラリー事情、また、カンボジアでの体験をきっかけに始めた社会貢献活動、最近のプロジェクトについて語



インド、2013年

ていただきました。2021年2月13日まで、井津建郎写真展「永遠の光」がギャラリー・パウハウス(東京)で開催された。

【プロフィール】

1949年大阪に生まれる。日本大学芸術学部に進んだ後1971年に渡米。以来ニューヨークを拠点として作品制作と発表を続けて現在に至る。30数年間にわたって世界の「聖地」を14x20インチのカメラで撮影、プラチナプリントによる表現の他、植物、果実や人体の習作をスタジオにて制作。近年は8x10フィルムと中判フィルムで撮影し、銀塩プリントによる表現の能面シリーズや『インド・永遠の光』も制作、発表。中判デジタルカメラによる作品集、『ボンベイ・鎮魂歌』と『抚州・忘れられた大地』も制作、発表する。

作品はニューヨーク・メトロポリタン美術館

はじめアメリカを中心に多数の美術館に収蔵され、日本では清里フォトアートミュージアムで4度にわたる写真展を開催、それら全ての作品が同美術館に収蔵されている。



写真解説

PASSION / 情熱 (表紙写真) ————— 泉 悟朗

たった一人の勝者と唇を噛みしめ涙を呑む多くのアスリートたち。栄光と挫折の狭間に見える人間のドラマにいつも胸が熱くなる。決してあきらめない強靱な精神力が数々の名勝負を生み出してきた。そこには、孤独に耐え、人知れぬ努力で乗り越えてきた困難、挫折、再起に費やした時間、それらの全てを内に秘め勝負に挑むアスリートたちの姿があった。

ファイナルラップを迎え肉体と精神の限界の果てにたどり着く栄光のゴール。彼らを突き動かし前進させる原動力こそがPASSION / 情熱なのかもしれない。
(写真展「PASSION / 情熱」)

IRREGULAR # 202002 (表4写真) ————— 小松 稔

私の展覧会に訪れた人は、よく、「写真じゃないのですか?」と言う。「これは写真なんです」と、答えることが多い。写真作品、あるいはその制作過程において、能動的な表現作業を加えることで、写真表現の可能性を一層広げることが出来ると考える。そして、また、ドローイングという自由な線が、絵画の中で表現される、「マチエール」として、写真画面への関わりと、可能性に気付かせてくれる。
(写真展「IRREGULAR」)

◆ JPS ギャラリー

鍛えられた鉄の光 ————— 曽根原昇

千葉県の、また国の伝統工芸品に指定されている「関東牛刀(かんとうぎゅうとう)」の製作現場を撮影しました。牛刀とは今も私たちの家庭で一般的に使われている万能包丁のこと。幕末の開国によって流入した食肉文化の影響を受け、当時の鍛冶職人達が技術を込めて産み出した洋包丁です。関東一帯で生産された牛刀は特に高品質であることで名高く、特に関東牛刀と呼ばれるようになりました。しかし、戦後の大量生産品に押され、伝統的な職人の技で造る関東牛刀も、今ではただ一人の鍛冶職人によって受け継がれているばかりです。

菜の花畑と爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳・五竜岳 ——— 菊池哲男

井上真央主演のNHK 朝ドラ「おひさま」で全国区となった長野県大町市の中山高原には、このドラマのロケ地を記念して看板が立っている。ここは爺ヶ岳や鹿島槍ヶ岳、五竜岳などが見渡せる最高のロケーションで、ドラマで流れたのは初秋の蕎麦畑だったが、5月上旬、真っ白な残雪を抱く北アルプスの峰々と菜の花畑の饗宴のほうがはるかにフォトジェニックだと思う。

「ぼくはここにいるよ」 ————— 渋谷敦志

2019年、ナイジェリア北東部のボルノ州にあるブルカを訪れた。周囲を軍の見張り小屋がラグビーボール状に囲み、町を内側と外側に分け隔てる。この軍事境界線の内側にいる限り安全だが、外界との交通は断絶している。「陸の孤島」と化した町の住人約7万4000人の半数が、イスラム過激派「ボコ・ハラム」の暴力から逃れて来た避難民だ。白いテントは難民を一時的に収容するシェルターだ。避難してきた難民は町中の仮設住宅を割り当てられる前、ここに収容される。その様子を撮ろうとすると、写真家の存在に気づいた子どもたちが駆け寄ってきて、レンズに飛び込んでくる。「ぼくはここにいるよ」と言わんばかりに。

夕日隠れのモンロー ————— 英 伸三

客足が途絶えて久しい歓楽街の一角、雑居ビルの壁にマリリン・モンローの写真が大きく飾られていた。風雨に晒されて表面加工のフィルムが劣化してセクシーな顔に白い線が走り、まるでモンローさんに皺が寄ったように見える。かつて城下町として栄えた街だが、経済の構造変化による地方衰退の波には抗えず、商店街に人影はなく、更地にできた駐車場ばかりが目立つ。賑わいが戻るのは祭りの時ぐらいいだ。モンローさんに刻まれた皺はこの街の行方を暗示しているようだった。大分県中津市。

浅 縹 (あさはなだ) ————— 金子美智子

日本には美しい四季の移ろいがあります。全国各地を撮影していく中で、私は自然の中に様々な色があることを実感しました。四季の移り変わりの中で表情を変える自然の美しい姿や色合いの変化。私は撮影で巡り合う様々な自然界の色が日本の美しい「伝統色」と密接な関わりを持つことを知り、風景の中に秘められた色を作品に表現してみました。「浅縹」は、日本の伝統色の中で灰みの青色です。この作品は、満ち潮の海に突き出た岩に打ちつける波に空の色が幻想的に映り込み、そのグレーがかった青色がまるで絵画のように感じ、撮影したものです。

松韻を聴く ————— 川廷昌弘

日本人の心の風景ともいえる白砂青松。暮らしを守るために人の手で作られたこの風景が津波で徹底的に破壊された。津波前の風景を想像できない場所に、圧倒的な存在感で立つ枯れた松や生き残った松。これが今のこの地の風景であり、子ども達にとってはこれが故郷の風景として心に刻まれる。暮らしを守る風景とはどうあるべきなのか。今や東北の海岸線の多くが、松林の向こうに白い防潮堤が見え隠れし海は完全に見えなくなり、「白砂青松」という“情緒”から「白壁青松」という“構造”になった。

◆ FUJIFILM X ギャラリー

街角 ————— 八田公子

キューバ、ハバナ旧市街。
かつて、この国に咲いた華やかなりし西欧文化。
1950年代、歴史の大波が押し寄せ、舵取りが変わった。
時が止まったような街は、静かに朽ちていく。
栄華の色が褪せぬよう、幾重にも幾重にも色を重ねられた車。
セピア色に輝く街にいざなわれると、タイムトリップしたような不思議な感覚に包まれる。

出雲大社 本殿・拝殿から神楽殿 ————— 吉澤士郎

本殿の西側、神在月の神々が降り立つという稲佐の浜の方向に建つのが、この神殿。出雲大社で結婚式を挙げる場合は本殿ではなくこの神楽殿である。多くの芸能人が挙式した事でここが出雲大社の本殿と勘違いしている国民も多いかもしれない。大しめ縄は、「大注連縄」と言い、長さは13メートル。重さに至っては、5.2トンにも及ぶ(出雲大社 HP 調べ) 1/8秒のシャッタースピードだったが手持ちで撮れたのはボディの軽さに助けられたと実感した一枚である。

momentum.Orii ————— 中西 学

平成から令和に年号が変わった記念すべき日、私は富山県高岡市でユネスコ無形文化遺産に指定されている御車山祭りの撮影をしていた。その日を境に高岡に何度も足を運びその美しい伝統文化に魅了され撮影を重ねた。2020年世界がコロナ禍で静まり返ったなか、今高岡の人々はどんな生活をしているのだろうかと思い約10ヶ月前に訪れたとき出会った伝統技術を受け継ぎ活躍している若手エースの姿を捉えた瞬間。



Message Board



◆佐藤成範 (1981 年入会) 40 年の歳月

来年 4 月には早いもので入会から 40 年目を迎える。この間、多くの会員と出会いました。特に中国取材を中心とする友人等と中国との国際交流を目的に日本中国写真芸術協会を設立し、数多くの写真展の開催と中国撮影旅行を実現出来ました事は皆様の御支援とご協力の賜物と深く感謝に耐えません。今後は会員の作品発表と販売の場として六本木に開設した写真ギャラリーを通じて皆様に貢献する事ができるのではと思っています。よろしくお願いします。(東京都港区在住)



◆小池 汪 (1974 年入会) 今も息している戦争

敗戦から 75 年経った 2020 年初頭の新聞が「平和資料館細る入場者」を報じた。オバマ効果で広島は別だが各地の資料館は来場者が激減し閉鎖や休館が目立つとか。私の住む川崎に川崎市平和館がある。日本の戦争は 75 年前に終結したが私にはまだ日本国内に戦争が息している、と感じている。

大日本帝国海軍の横須賀鎮守府はいま日米同盟下、米海軍と海上自衛隊の基地、呉鎮守府は東アジア最大の米軍基地。横田基地も旧日本軍の軍用地だ。主が変わっただけ。このような日本を 85 年間にわたり俯瞰する写真展「戦争暮らし」を 10 月、川崎市平和館で開いた。写真家としてではなく市民としての写真展だ。私が幼児だった 1930 年代へのアプローチは残された遺物。郵便用紙のない戦場でタバコの裏紙に書いた軍事郵便は故郷の父母と妻宛て。着いたが兵士は戦死。兵士が身に着け戦場を駆け抜けすり減った千人針など、その時、その人を感じさせる工夫での撮影。会場ではほとんどの人は数十分滞在し写真を見て数人、涙を流した人もいた。小学生も高校生もしっかり見てくれ、感想文を書いてくれた。感想文 265 通。戦後生まれの人々が戦争を如何に感じているか。私は「戦争はいやだ」をその人々と共有することができ



た。コロナ禍、入場は 20 日間で約 1,000 名。(神奈川県川崎市在住)

◆金城真喜子 (2007 年入会)

「あれから 10 年経ちましたね…」とそのメモには書かれていました。

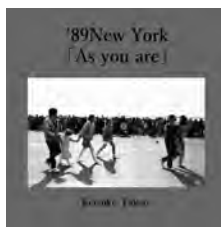
2018 年リコーイメージングスクエアで「ベスト オブ モノクローム」に出品していた時のことでした。メモを残して下さったのは 2009 年に私が写真学習の授業に行った平塚市の当時の小学校の校長先生です。やらねばならないという義務感で小学校にアプローチしました。受話器の向こうで静かに話を聞いていた校長先生から「それでいつやるの?」という思いがけない答えが返ってきました。当日は担任の 3 人の先生に手伝っていただいてあつという間に終り、玄関に送りに出て下さった校長先生が、おそらくポケットマネーで用意したお菓子をお土産にくださいました。その後何回か写真展の折にも足を運んでくださいました。初めてお会いした折に私が小学校にはあまり行っていない楽しい思い出がない、そんなわけで卒業後は学校の近くに行くこともなかったということをしたことがあった。そのことを少し気にかけていたのかもしれません。

卒業後半世紀以上経ってかけがえない小学校時代の思い出を作ってくださった校長先生を時々思い出します。ご自分の仕事に気負うことなく使命感を持って関わり合っている姿に惹かれたからです。(東京都世田谷区在住)

◆高尾啓介 (1995 年入会)

「'89 New York」「'89 West Coast」「'96 マレー鉄道の旅」の三部作は OPEN CAFE 渋谷での写真展を記念して BOOK にしたものだ。OPEN CAFE を主宰する知人からの依頼で白い壁面を写真で飾れると云う。ならば白黒写真が手元に有るからと返答。30 年以上前にネガで撮影しプリントして於いた写真を当時のまま額装展示。7 月～9 月の 60 日に渡り写真展示を行う事が出来た。僅かに展示販売を含め祝い金で書籍製作を思い立ち準備する事に。総部数 400 数十冊と少ないが編集はパソコンを使いながら自分で行う事も可能で十日足らずで完成。

会場のカフェで約 50 名を二度に分け出版祝いを開催し配布



する事が出来た。今更ながら、ネット社会のペーパーレス化の最中、写真集も売れないからとばやく前に自分の写真を本にして残し何時までも手に取り見て貰う意義は有ると信じている。

(東京都葛飾区在住)

◆山村善太郎 (1970 年入会) 【神々への美宝】

宗像大社より沖ノ島から発掘された国宝の撮影依頼があり、展示されている国宝の中より自由に選び、自由に撮っていいとのこと、大変やりがいを感じる、身の引き締まる思いがした。写真家とはメッセージャーであると思う。先入観を持って臨むと被写体の本質を置き去ることになる。自分を消してじっくり



観察していくうちに、撮影ポイントが見えてきた。古代の人々が神々に捧げるお供物にいかにか心血を注ぎ、どれほどの時間と労苦をかけたのかと思いを寄せる。今、環境問題に直面する私たちは、このような古代日本人のアニミズム精神を再認識すべきかもしれないと深く感じた。(兵庫県神戸市在住)

◆江成常夫 (1970 年入会) 『シャオハイの満洲』

日本の植民地「満洲」(中国東北部)に、ソ連軍が侵攻し、戦場と化すなかで現地にに残された日本人戦争孤児は、3,000 人とも 4,000 人とも言われ、正確な人数は定かでない。そうした戦争孤児の身元調査が始まったのは、敗戦から 36 年が過ぎた 1981 年 3 月。私はアジア太平洋戦争に、仕事の文脈を決めていたので、すぐに現地を訪ね、以後 4 年にわたり 100 人余りの孤児と面会し、撮影とインタビューを続けた。

視覚言語としての写真には、言葉は無用とするジンクスがある。しかし、生死をくぐった体験には庶民史としての重点がある。そう受け止め、ここではあえて写真と言葉を拮抗させ、「フォノンフィクション」として纏め、84 年『シャオハイの満洲』(集英社)、88 年同、新潮社文庫として出版された。その成果を得て、今度 32 年ぶりに復刊の栄



誉をいただいた。
(神奈川県相模原市在住)

◆蓮野日出男 (1977 年入会) 写真集『天下の奇祭』

江戸時代から伝わる、ほだれ祭り、豊年祭り、どんつく祭り、道祖神祭り、しねり弁天たたき地蔵、かなまら祭り、その地域独特の風習や伝承に基づき五穀豊穡、子孫繁栄、夫婦相合、を祈願する、ちょっと変わった祭りです。しねり弁天たたき地蔵 (新潟県小出町) 祭りが最高潮になった頃、新婚のカップルが「たたき地蔵」からご神体にな



たがり「しねり弁天」に突入する「金精様婚入り」が行われます。かなまら祭り (川崎市金山神社) 海外では「歌麿フェスティバル」として知られており、毎年多くの外国人観光客が訪れます。祭りのご神体は…男性のシンボル。残しておきたい楽しいお祭りです。(東京都品川区在住)

◆渡部佳則 (1997 年入会)

昨年 6 月末、私の住む新潟県のラジオ局、新潟県民エフエム放送 (FM PORT) が経営難のため閉局になりました。私は 2000 年の開局から約 20 年、撮影エピソードを語る番組を担当させてもらいました。私が撮影した 1 枚の写真を取り上げ、撮影時の状況や、被写体とのやり取り、後日談などを語る内容で、閉局に際し数えてみたら、すでに 1,000 話を超えていました。自分の 20 年を振り返り、被写体と番組リスナー、スタッフへの感謝を込めて、放送電波の周波数にちなんで、79 話を本にまとめました。『ファインダーの向こう側 ~ 79.0 の撮影エピソード』。Amazon、楽天ブックスにて扱っています。(新潟県新潟市在住)



◆長野良市 (1990 入会)

2020 年 7 月 4 日に発生した球磨川豪雨水害を『ゼロの球磨 人吉』Vol1 にまとめ発行したのが 9 月 4 日の 2 ヶ月後だった。表紙に使った人吉市中神町大柿地区の写真は立ち入り解除になった 15 日、友人と一緒に地区に入った。ここは球磨川沿いでは人吉市の最下流域に位置し、川向かい側が隣接する球磨村の渡地区になる。そこは高齢者施

設で多くの命が奪われた千寿園がある。川は大柿地区入口で大きく右に、そして左に蛇行する。暴れた水はまっすぐ流れ「川津波」を発生させ、すべての物を押し流した。さて現地では、球磨川最大の支流、川辺川ダム建設問題が再浮上、新たな問題としてくすぶりはじめた。Vol2 は「食」の支援活動報告として既刊、Vol3 で下流域、Vol4 で川辺川をまとめたいと考えている。(熊本県南阿蘇村在住)



◆吉村和敏 (2014 年入会) 吉村和敏写真集『SL × 信州』 (丸善出版、価格 3,900 円 + 税)

生まれ故郷信州に残る静態保存 SL をテーマにした写真集。SL の周りにある電線、柵、車、看板、物置、遊具などもあえて記録することにより、SL が置かれている「今」の状況を的確に伝え、独特の作品世界を作り出している。すべての撮影は、8 × 10inch 大型ビューカメラ + モノクロネガフィルム の組み合わせで行われた。車体の錆や塗装の剥がれ、バラスト一個一個の形さえも精緻に写しとめることにより、昭和、平成、令和という時代を生き抜いてきた蒸気機関車たちの「自信」と「誇り」を伝えている。写真集は、フィルム原寸大でレイアウトすることにより、拡大・縮小されることなく紙媒体になることが、逆に彼らの大きさと重量を伝えることができるような気がしたからだ。(東京都江東区在住)



◆飯塚明夫 (1994 年入会)

人類がコロナウイルスの脅威にさらされてから一年以上が過ぎたが、まだ収束の見通しも立たない。思えば去年の 3 月 17 日から 31 日まで、私は遠く異国の地マラウイ (アフリカ) でコロナ禍に翻弄されながら過ごしていた。どうしてもマラウイに行かなければならない事情ができ、あわよくば撮影もと目論んだが、甘い考えにはマラウイ到着とともに暗雲が立ち込めた。空港で防護服を着た係官に、2 週間の自主隔離を申し渡され、それが終われば取材開始



と未練がましく思ったが、コロナ禍は深刻さをました。4 月 1 日に空港が封鎖される」とのニュースが流れ、チケットを変更して間一髪どうにか 3 月 31 日に脱出できた。帰国できなかった場合を思うと今でもゾッとする。

(東京都中央区在住)

◆池口英司 (2016 年入会)

昨年夏にイカロス出版から『グルメ列車の旅』という本を上梓しました。いま全国で 30 本を超える数の、車内で食事を楽しむことができる列車が運転されていて、そのメニュー、利用方法などを紹介したガイドブックです。

北海道から九州まで、各地で運転されている列車は、それぞれの地域の特色が出されていて、メニューもさまざま。コース料理が出されているものもあれば、握り寿司もあり、地元のパティシエ手作りのスイーツもありで、本当にどれも魅力的です。書いていて不満なのは、いま実際に自分がそれを口にできないこと。その鬱憤は相当なものでした。コロナ禍が収まったら…。まず握り寿司から攻めてみたいところです。

(神奈川県横浜市在住)



◆伏見行介 (1997 年入会)

2011 年 12 月の末、初めて東日本大震災の被災地を訪れた。その年の 3 月 11 日、ご存知のように震災が起こり、津波による想像を絶する被害がでた。JPS の多くのメンバーが、被災地に入り多くの写真や動画を撮影した。私もすぐにでも被災地に行きたかったが、広告系のフォトグラファーの悲しさ、被災地でサバイブするノウハウもなく、被災地の方々にご迷惑をかけると思い、行けなかった。ただ、災害がおきた年のうちには行こうと思い、2011 年の年末に被災地を訪れた。昨年末で 10 回になった。

毎年、同じところを訪れると、表面的かもしれないが復興の兆しははっきりわかる。たが、人の心を含めた復興にはまだまだ時間が必要だろう。そして何よりも、福島原発はどうなるのだろう。10 年は続けようと思ったこの撮影、もう少し続けたいが、後 10 年は年齢的には無理な年になっている自分に付き、何とも言えない気持ちになった。

(東京都新宿区在住)





熊切 圭介 名誉会員

2020 年 11 月 27 日、誤嚥性肺炎のため逝去。86 歳。

1961 年入会、1991 ～ 2015 年公益社団法人日本写真家協会副会長、2015 ～ 2019 年公益社団法人日本写真家協会会長、2019 年総会にて名誉会員に推挙、協会運営に多大なるご尽力をいただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

東京・下谷西町に生まれる。1958 年日本大学芸術学部写真学科卒業。のちにフリーランスの写真家として週刊誌を中心に月刊誌、グラフ誌など主にジャーナリズムの分野で活動する。同時に単行本、美術全集等の撮影を行う。

さよなら熊さん

木村 恵一

「写真というメディアの面白さは撮影した時点では特別なこととは思われない事実でも時間が経つにつれ記録としての重みと意味が増してくることだ。そのことのために写真家はひたすら目の前の現実を記録し続ける」。この一文は熊切圭介君が 2008 年に上梓した写真集『繁栄と変革 60 年代の光と影』あとがきに記された一文だが 1960 年代はまさに世の中、繁栄と変革の時代を彼は『週刊現代』嘱託としてグラフジャーナリズムの世界で四日市公害や東大紛争など社会時評や人間模様を撮り続けた。そしてグラフジャーナリズムの世界で優れたルポルタージュを多く残し、写真家としてスタート間もない 1961 年には「名張毒ブドウ酒殺人事件」で早くも講談社写真賞（出版文化賞）を受賞している。

東京下町生まれの熊切君は 1958 年日大芸術学部を卒業するが在学中より丹野章氏に師事しその後フリーとなり、私と 2 人の頭文字をとって K2 写真研究室を設置。その後日芸卒の同級生、齋藤康一・高村 規・野上 透・松本徳彦・熊切圭介・木村恵一で写真集団「六の会」を設立。みな働き盛りのなか集まっては気炎を上げギャラリーで写真展を開いてきたが、熊切君の写真活動は 60 年繁栄のなかで更に円熟味を増し『週刊現代』

連載の「企業の最前線」で 4 年に亘って日本企業の実態を見極め検証している。その後大阪万博（1970 年）の頃より週刊誌の仕事から離れ美術文芸の分野での仕事が増えてゆく。『手漉和紙精髄』（講談社）は今も多くが消えた伝統の和紙と和紙の現場の撮影とその漉いた紙とを一緒に綴じた大きな分厚い書は今でも貴重な和紙の書籍として保存されている。また東京下谷西町小学校で先輩としての池波正太郎氏との交流もあり『池波正太郎のリズム』など文芸書や美術全集の仕事を多く残しているが後年は癌にもいろいろ見舞われた。胃癌をはじめ内臓の癌を 3 回他の癌も含めて 4 回も腹を切った痩せた身体に切り傷痕が痛々しかったがよく歩いて写真を撮り続けていた。

晩年は講談社時代の友人が所有するセブ島近くの小さなカオハガン島に 20 年に亘って通い島の子供たちと自然を撮り続け『南島からの手紙』を上梓し写真展を開いたりゆったりとした暮らしをしていた。早くに愛する妻を亡くし長女と暮らしていたが長男の大輔君が写真界で活躍する姿をととても喜んでいた。読書家で豊かな知識と心の優しい人物だったが写真に関しては頑固で決して妥協を許さず写真で語り続けて筋を通した生粋の江戸っ子だった。六十数年來の友人として先に逝かれたことが無念です。

合掌

熊切圭介さんの立派な眉毛

田沼 武能

1995 年であったと思う。六の会の有志が我が家に訪ねてきた。何事かと話を聞くと「次期の役員選挙で私に会長になってほしい」とのことであった。勿論会員の選挙で理事に選ばれた後のことで、その中に熊切圭介さんもいた。その年の選挙で私は理事に選ばれ、熊切さんに副会長を引き受けていただいた。

暫くして熊切さんは築地のガンセンターに入院した。JPS 副会長の要職がハードでガンに侵されたのでないか心配し見舞ったが、手術は無事成功し安心したことを思い出す。その後も何度か手術があったが、その都度、難を乗り越えている。

熊切さんは歳を経るごとに立派な貌になっていった。本人は余り好きではなかったようだが、白髪眉毛が立派だった。社会民主党の党首が立派な眉毛で有名だったが、それに劣らぬ眉毛の持ち主であった。ある日新聞を読んでいると全頁に熊切さんの読書する姿の写真があった。講談社の広告で、その肖像はいかにも知識人を象徴する表情で、私はその品格のよさに写真家として誇りを感じた。熊切さんは、24 年間副会長職を務めその後会長になった。私が 20 年間会長を務め数々の業績をあげることができたのは副会長熊切さんのサポートがあったからと感謝している。ご冥福を祈ります。

熊切さんを偲んで

野町 和嘉

熊切圭介前会長が逝去された。1960 年代から '70 年代にかけて、日本のグラフジャーナリズムの隆盛期に週刊誌を主な舞台として、高度経済成長期の光と影を、多面的に、優れたルポルタージュ作品として発表された。作品の鋭さとは対照的に温厚な人柄で、穏やかな笑顔で周囲を包み込む人だった。作家の池波正太郎取材した作品にそんな熊切さんの人柄が偲ばれる。そして写真界が最も羽ばたいた時代、とりわけ 1991 年から 2015 年までのじつに 24 年という長期にわ

たって JPS の副会長として、その人柄からにじみ出る信頼によって、実質的な協会運営の中軸を担っていただいたわけであった。その間に、「日本現代写真史展」（1975 年）、『日本現代写真史 1945 ～ 95』（2000 年）の編集総括をはじめとして、さらに広範囲に、わが国写真文化の位置づけに多大なる貢献をされた。同時に、日芸写真学科卒業同級生 6 人の集まり「六の会」の中心メンバーとして、JPS 並びに写真界全般を長きにわたって牽引していただいたことに、心より感謝を申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。



木村 晃造 正会員

2020年8月16日、逝去。80歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(1969年入会)



清水 公代 正会員

2020年10月5日、多臓器不全のため逝去。87歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(2002年入会)



野沢 敬次 正会員

2020年10月30日、心筋梗塞のため逝去。61歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(2011年入会)

経過報告 (2020年7月～2021年1月)

- ◎ 7月31日 2020(令和2)年度第21回定時会員総会 PM2:00～4:00
JCII会議室 本人出席者26名、代理委任0名、議決権行使書876名、計902名、監事2名
○決議事項：第1号議案：2019年度事業報告及び決算承認の件
報告事項：1.「2020年度事業計画書」の件、2.「2020年度予算書」の件、3.第46回「日本写真家協会賞」の件、4.会費滞納による正会員資格の喪失の件、5.その他
- ◎ 8月28日～9月3日 2020年新入会員展(大阪)
富士フィルムフォトサロン大阪 出品者33名、作品数66点、入場者数2913名
○「私の仕事」
- ◎ 9月18日～国際交流委員会企画「表現者たち」Vol.1 JPSホームページ
○「黒人差別撤廃への序章 伝播する叫び」ロバート・ゲルハート
- ◎ 10月2日 日本写真保存センター2020年度第1回諮問委員会議
AM10:30～11:30 JCII会議室 16名
- ◎ 10月2日 日本写真保存センター2020年度第1回支援組織会議
AM11:45～12:30 JCII会議室 支援組織会員7社9名、JPS9名
- ◎ 11月21日～2020 JPSフォトフォーラム オンライン(第14回) JPSYouTube
○「人と向き合う。」榎並悦子、白鳥真太郎、渡辺達生
- ◎ 11月28日 おやご写真教室 10:30～16:30 銀一スタジオショップ イベントスペース 参加者3組6名
- ◎ 12月7日 第48回公益社団法人日本写真家協会理事会 PM4:00～5:00
JCII会議室 18名、欠席2名、監事2名、欠席監事1名
○第1号議案：公益事業「公1～6」を統廃合して「公1と公2」に再編する件
第2号議案：定款の変更「常務理事の人数を現状の5～6人から2～6人とする」件
第3号議案：定款の変更「理事会の書面評決のため「決議の省略」条項追加」の件
第4号議案：事務局員用「テレワーク就業規則」承認の件、他
- ◎ 12月18日～国際交流委員会企画「表現者たち」Vol.2 JPSホームページ
○「写真を通して日中文化交流を」鳥里島沙
- ◎ 1月27日～国際交流委員会企画「表現者たち」Vol.3 JPSホームページ
○「聖なる土地の光を追って 写真家 井津建郎氏」

編集後記

◎創立70周年記念事業「日本の現代写真1985-2015」展が3月20日にオープンします。今号のFocusでは開幕直前の写真展の内容を直近30年の現代史年表と共にダイジェストで構成しました。新型コロナによる緊急事態宣言下で来場者への影響も予想されますが、会場での鑑賞の参考になれば幸いです。(田沼)

◎新型コロナの影響は、協会活動の自粛を余儀なくされ、広報活動が主体となる会報編集においても様々な変更が必要となりました。協会の活動はYouTube動画やJPSホームページを活用した情報発信が進んでいる。会報の役割も変化したし、JPSからの情報発信全般に変革が必要な時期がきているようだ。(小池)

◎コロナ禍の中でも時々写真展に足を運ぶが、来場者はまばらだ。関わりのある写真学校の卒業写真展は中止になり、代わってウェブサイト写真を発表することになった。歴史上ウィルスによって人類は社会的仕組みを変えさせられてきたというが、変化する写真の世界もポジティブ思考でいい方向に変わっていくものだ。(飯塚)

◎カメラボディを新規で導入しました。これまで使っていたメーカーとは違うもので、操作系の違いに大いなるハードルがあり、克服が快感です。すると、

パソコンが壊れました。新規で導入せざるを得ず、操作系の違いがハードルで快感です。さあ、次は何が壊れる番なのだろう？ (池口)

◎昨年度後厄も終えて気持ちも新たに機材やノートPCを新しく新調した。特にカメラを追加して撮影範囲を広げることも考慮しながら機種選びをした。まずは自分の身体の一部として使いこなせるように触りまくっている。緊急事態宣言で外出もままならない状況でも楽しく手になじませている。(川上)

◎コロナ延期となっていた日本建築写真家協会「銀座ジャック 再び！」写真展開催がようやく11月に決定した。今年は隔年の「協会展」も6月にあり、コロナ禍ではあるが協会としては忙しい年である。協会事務局の変更を乗り越え、コロナ終息と2つの写真展の無事開催を望みたい。(小野)

◎Jリーグに加え今季からBリーグクラブのオフィシャルフォトも務めることになり、両者が定める感染防止対策を守るために四苦八苦しています。96歳になる父介護のため、高齢者との同居と感染防止の両立という新たな課題もあり、ワクチン接種は始まったものの落ち着かない日々が続きます。(小城)

◎海外に出掛けることがなかった1年間。ここ数年なかったことだが、取材して原稿を送るというリモ

ータ的な生活スタイルはあまり変わっていない。問題があると言えば、利用頻度の減ったクレジットカードと海外用携帯をどうするかだ。次に海外に行けるのはいつになるのだろうか。(柴田)

◎東日本大震災から10年めの昨年末、10回めの被災地定点撮影に行った。被災地の町並みは復興に向かっている。だが、忘れてならないのは福島原発の現状。国道6号線の内原近くをとると、時間が止まっている。原発問題が解決しない限り、真の解決にはほど遠い。1年に1度の身の引き締まる撮影は、もうしばらく続く。(伏見)

◎写真と通信は欠かせないものだが、ここに来て携帯料金が急落。なかには月々0円も。独立したての30年前は、平均3万円ほど払っていたのがウソのよう。合わせるように昨年以降、リモート化も一気に加速。モニター越しに指示を受け、撮影から納品も現実。時代は流れていきます。(桃井)

◎リアルタイム音声SNSともいえるべきClubhouseをはじめた。あるテーマに基づいて複数の人と電話で会話しているようで、見ず知らずの人とどんどん仲良くなっていく。まさに家にいながらネットワークが広がっていく感覚が味わえる。コロナウィルスによる自粛生活もだんだんと板についてきたようだ。(山縣)

日本写真家協会会報 第175号 (年2回発行) 2021年3月10日 印刷・発行 ©編集・発行人 野町和嘉

URL <https://www.jps.gr.jp/> Email info@jps.gr.jp 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます

頒価 年2回発行：2,500円(消費税・送料共込)

出版広報委員 田沼武能(理事)、小池良幸(委員長)、池口英司(副委員長)、飯塚明夫、小野吉彦、川上卓也、小城崇史、柴田 誠、伏見行介、桃井一至、山縣 勉

発行所 公益社団法人日本写真家協会 (JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル303 電話 03(3265)7451(代表) FAX 03(3265)7460

印刷所 株式会社光邦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3丁目11番18号 飯田橋MKビル 電話 03(3265)0611(代表)

JPS ブック レビュー

協会に寄贈された会員の出版物を到着順に掲載致します。
(2020・7月～2021・2月)

- ①発行所 ②発行年月
③サイズ (タテ×ヨコ)、頁数
④定価 ⑤寄贈者
⑥電子書籍ストア

櫻井寛さんの 全国私鉄路線と車両大図鑑

櫻井 寛

- ①世界文化社 ②2020年8月
③25.7×18.2cm、352頁
④3,200円 ⑤発行所

天下の奇祭

蓮野日出男

- ①蓮野日出男 ②2020年7月
③18×18cm、50頁 ④一円
⑤蓮野氏

サンゴと生きる

中村征夫

- ①大空出版 ②2020年5月
③19×19cm、44頁 ④1,200円
⑤中村氏



SOUL OF ANIMALS

前川貴行

- ①日本写真企画 ②2020年7月
③21×14.8cm、304頁
④2,500円 ⑤前川氏



グルメ列車の旅

池口英司

- ①イカロス出版 ②2020年7月
③21×14.8cm、160頁 ④1,760円
⑤池口氏



山海里・響

落井俊一

- ①風景写真出版 ②2020年8月
③22×21cm、80頁 ④2,000円
⑤発行所



鹿島槍五竜岳 天と地の間

菊池哲男

- ①山と溪谷社 ②2020年3月
③27.7×21cm、80頁 ④2,800円
⑤菊池氏



1960～80年代 京成電鉄の記録

諸河 久

- ①フォト・パブリッシング
②2020年8月 ③25.7×18.3cm、
128頁 ④1,800円 ⑤発行所



写真家の心 詩人の眼

小松健一

- ①本の泉社 ②2020年8月
③21.6×15.2cm、280頁
④2,500円 ⑤発行所



トウキョウカラス

清水哲朗

- ①JCII フォトサロン
②2020年9月 ③24×25cm、31頁
④1,000円 ⑤発行所



万葉大和路

入江泰吉

- ①光村推古書院 ②2020年9月
③16.3×12.2cm、288頁
④2,800円 ⑤発行所



ゼロの球磨 人吉
長野良市、長野梢人

①九州学び舎 ②2020年9月
③29.7 × 21 cm、37 頁 ④500 円
⑤長野氏



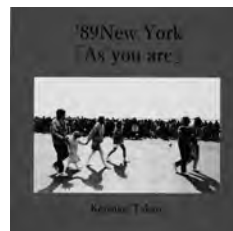
SL × 信州
吉村和敏

①フォトセレクトブックス
②2020年10月 ③22 × 28.3 cm、
71 頁 ④3,900 円 ⑤吉村氏



シャオハイの満洲
江成常夫

①論創社 ②2021年1月
③18.8 × 12.8 cm、355 頁
④2,400 円 ⑤江成氏



1989 年ニューヨーク
「その瞬間を今」
高尾啓介

①オフィスタカオ ②2020年9月
③21 × 21 cm、26 頁 ④900 円
⑤高尾氏



ファインダーの向こう側
渡部佳則

①新潟日報事業社 ②2020年7月
③23 × 17.8 cm、165 頁
④1,800 円 ⑤渡部氏



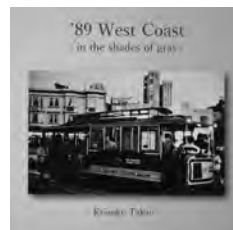
新版 アフガニスタン
勇気と笑顔
内堀タケシ

①国土社 ②2020年11月
③22.6 × 21.6 cm、44 頁
④2,000 円 ⑤内堀氏



モンローの皺
ある城下町の行方
英 伸三

①現代写真研究所出版局
②2020年11月 ③24 × 18.5 cm、
144 頁 ④2,500 円 ⑤英氏



1989 年濃淡で描く西海岸
高尾啓介

①オフィスタカオ ②2020年9月
③21 × 21 cm、28 頁 ④900 円
⑤高尾氏



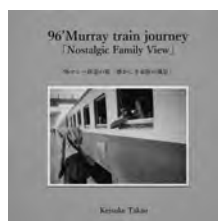
神々への美宝
山村善太郎

①求龍堂 ②2020年11月
③21 × 14 cm、144 頁 ④1,818 円
⑤山村氏



鉄道と郷愁
蘭部 澄

①JCII フォトサロン
②2020年12月 ③24 × 25 cm、
31 頁 ④1,000 円 ⑤発行所



1996 マレー鉄道の旅
「懐かしき家族の風景」
高尾啓介

①オフィスタカオ ②2020年9月
③21 × 21 cm、28 頁 ④900 円
⑤高尾氏



雨・露・雪
野の花
八木祥光

①やるき出版 ②2020年10月
③21 × 14.8 cm、104 頁 ④2,000 円
⑤八木氏

 世界中で愛される 美しすぎる猫 図鑑 写真・福田豊文 監修・今泉忠明 ①大和書房 ②2020年7月 ③15×10.6cm、255頁 ④900円 ⑤福田氏	 秘色 金子美智子 ①日本写真企画 ②2020年7月 ③18.2×28cm、78頁 ④2,500円 ⑤金子氏	 185系 特急電車の記録 諸河 久、北沢剛司 ①フォト・パブリッシング ②2021年2月 ③25.7×18.2cm、 128頁 ④1,800円 ⑤発行所	 東京 美人景 熊切大輔 ①日本カメラ社 ②2021年1月 ③18.2×18.2cm、112頁 ④2,000円 ⑤熊切氏
 サハラ 野町和嘉 ①JCH フォトサロン ②2021年1月 ③24×25cm、31頁 ④1,000円 ⑤発行所	 国鉄 上野駅 24時間記 荒川好夫 ①グラフィック社 ②2020年12月 ③28×21cm、192頁 ④3,200円 ⑤荒川氏	 日本の美しい町並 森田敏隆 ①光村推古書院 ②2021年2月 ③24.8×17cm、144頁 ④2,600円 ⑤発行所	 愛しい JPS 会員 19 名 ①(公社)日本写真家協会企画委員会 ②2021年2月 ③29.7×21cm、 44頁 ④1,000円 ⑤発行所

寄 贈 図 書

双葉社様……………監修・櫻井寛、作画・はやせ淳・新・駅弁ひとり旅2
JCH フォトサロン様……………内田耕作・山の造形
…ゼラチンシルバーセッション参加作家による ファインプリント展
山田健太様……………愚かな風
ぶどうばん社様……………中村 咲・いのちの巡礼、橋都とみ子・家族 紐帯
板見浩史様……………洞井耀毅・中国革命と写真 黎明期から文革まで
藤田篤男様……………望郷 FUKUSHIMA 2011-2020
金指栄一様……………黄金あかり
川村登久子様……………感動の旅から
青木 弘様……………樹平線 juheisen 〜中央アフリカのいま、子どもたちの未来〜
中西篤行様……………伊勢 一榮一落是春秋
『東京好奇心 2020 渋谷』実行委員会様……………東京好奇心 2020 渋谷
JAGDA 様……………JAGDA 国際学生ポスターアワード 2020
クレヴィス様……………星野道夫・[新版] 悠久の時を旅する
…監修・西寺郷太・MJ―ステージ・オブ・マイケル・ジャクソン

交通新聞社様……………土屋武之・旅は途中下車から
……………栗原 景・アニメと鉄道ビジネス
……………和田 洋・こんなものまで運んだ! 日本の鉄道
……………鈴木文彦・西鉄バスのチャレンジ戦略
「反核・写真運動」事務局様……………FLASH OF LIGHT WALL OF FIRE
東京写真記者協会様……………第61回 2020 年報道写真展 記念写真集
東京都写真美術館様……………TOP コレクション 琉球弧の写真、エキソニモ
……………あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17、石元泰博 生誕 100 年
日本カメラ社様……………瀬戸正人・記憶の地図、瀬戸正人・深瀬昌久伝
……………編集・圓谷真唯、村上仁一・これからはじめる写真フィルム
……………加藤洋一・東濃物語
日本写真協会様……………「東京写真月間 2020」図録
日本写真作家協会様……………2020-2021「JPA 作品集」
風景写真出版様……………國政 寛・花色の息吹

Aflo Atelier

プロ向け高品質 プリントラボ

プロのレタッチャーを含む3名の経験豊富な技術者が仕上げる

著名作家の
写真展
実績多数

作品用
プリント

長期保存
に最適

即日仕上げ
も可能

用紙はキャンソン、ハーネミュレ、イルフォード、
岩野市兵衛謹製和紙など多数取り揃えています。

お問合せは アフロアトリエ

☎ 03-3546-2717

✉ atelier@aflo.com



atelier.aflo.com



古賀康行

10年以上に及ぶレタッチャーとしてのキャリアがプリントに活かされている。



白井里実

ニューヨークICP美術館の展覧会用プリントに携わる。



西田勇

キャノンギャラリー担当者として長年従事。

フィルムの スキャンサービス

最高機種の
Hasselblad Flextight X5
を使用



お問合せは アフロアトリエ

☎ 03-3546-2717

✉ atelier@aflo.com



atelier.aflo.com

作品をレタッチ、さらに美しく。

プロのレタッチ集団
アフロビジョン

Aflo vision

vision.aflo.com

お問合せは アフロビジョン

☎ 03-3546-0900

✉ aflovision@aflo.com



HCLファインアートプリントサービス



ILFORD CERTIFIED PRINTER PARTNER

イルフォード 認定ラボ

作品を極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数のアーティスト用紙でご提供します。

ファインアートプリントの高い技術と知識を有する

熟練のプリンティングディレクターが作品制作をサポートします。



ハーネミュレ ファインアート バライタ

深い色合い、上質な光沢と質感、
広い色再現域、高い最大濃度と
滑らかなグレーの階調表現で、
特にモノクロ写真に最適です。



ハーネミュレ フォトラグ

精細で滑らかな面質により
多目的に使い、モノクロとカラー
写真のどちらにも適し、深み
を感じる絵画的な作品に仕上が
ります。



伊勢和紙 芭蕉

滑面と粗面があり、制作意図に
応じてどちらの面でもプリントが
可能で違った風合いを表現でき
ます。

〈写真は全てイメージです。〉

このほかにも条件により各種ファインアートペーパー出力の対応が可能ですのでご相談ください。

フォトイメージングセンター 神田
東京都千代田区神田小川町2-6-14
☎ (03) 6854-9581

フォトイメージングセンター 青山
東京都渋谷区神宮前3-41-6
☎ (03) 3479-5351

大阪営業部 営業課
大阪府大阪市北区万歳町3-17
☎ (06) 6313-2351

株式会社 **堀内カラー**

ファインアートプリントサービスの詳細はこちら▶
webからも注文できます! horiuchi-color.co.jp/



作品、求む。

aflo

- 専門性の高いコレクションを集めています
- 作品はライツマネージド(著作権管理)で運用
- 広告、テレビ、カレンダー、出版物、商品、
図鑑、教材などに提供

アフロ

青子龍二



お問合せは アフロ AD部

☎ 03-3546-0262

✉ afload@aflo.com

株式会社アフロ

www.aflo.com



銀座のダイニングバーで
ミニ写真展をひらきませんか。

審査はありません

お問合せは
アフロ ニーケ写真展担当

☎ 03-3546-0263

ni-ke.aflo.com



イメージマートで 写真やイラストを販売しよう！

イメージマートは投稿型ストックフォトサービス。
みんなで「世の中にあるすべてのもの」の写真が集まるサイトに！
どしどし投稿してください。

imagemart.aflo.com

imagemart.
aflo.com



お問合せは イメージマート クリエイターサポート

☎ 070-6422-7946

エントリーは
はこちらから





撮影した瞬間に、
著作権は生まれます。

——著作権は無方式主義

写真著作権を大切に

クレジットを入れ忘れてしまったから
データをすべて渡してしまったから、
そんなことで
著作権が失われたと思っていませんか？
著作権は何の登録もなく、
撮影した瞬間に生まれ、
譲渡する契約がなければ、
いつでもあなたに保持されています。
そして、写真は時を経て
その価値が高まっていくメディアです。
写真と共に生きてゆく時、
著作権はあなたの強い味方になるでしょう。



一般社団法人
日本写真著作権協会

<https://jpca.gr.jp> 〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 JCII ビル403

【会員団体】 公益社団法人日本写真家協会／公益社団法人日本広告写真家協会／一般社団法人日本写真文化協会／日本肖像写真家協会／一般社団法人日本写真作家協会／全日本写真連盟
一般社団法人日本スポーツプレス協会／一般社団法人日本自然科学写真協会／日本風景写真協会／公益社団法人日本写真協会／一般社団法人日本スポーツ写真協会

この広告は、公益社団法人日本複製権センターからの分配金による公益事業の一環として制作されています。

Canon

make it possible with canon

5



5であることが、すべて。

常に過去の5を塗りかえてきた、孤高のEOS。EOS Rシステムでも、期待を凌駕する完成度を実現した革新のフルサイズミラーレス。そのカメラの真の完成は、あなたが手にする、その時。多くの言葉はいらない。5であることが、すべてなのだから。

NEW EOS R5

写真は進化する。EOS R SYSTEM



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

東京2020ゴールドパートナー
(スチルカメラ)



EOSは2019年9月20日に累計生産台数1億台*、交換レンズ（EF, RF, CN-E）は2018年12月19日に累計生産本数1億4,000万本を達成しました。
※映像制作用シネマカメラを含む



© キヤノン EOS R5 ホームページ

canon.jp/eos-r5

キヤノンマーケティングジャパン株式会社



世界初*17-70mm、大口径F2.8。

どんな出会いも確実に描く革新。
高い光学性能を引き出す、手ブレ補正「VC」搭載。

あらゆるチャンス、鮮明に。

NEW

17-70_{mm} F/2.8 Di III-A VC RXD

for Sony APS-C mirrorless (Model B070)

ソニーEマウント用 Di III-A: APS-Cサイズ相当ミラーレス一眼カメラ専用レンズ
*APS-Cサイズミラーレス用大口径F2.8標準ズームレンズにおいて。(2020年11月現在。タムロン調べ)



TAMRON
Focus on the Future

www.tamron.co.jp

ヨドバシカメラの ゴールドポイントカードが M&石井スポーツ ART SPORTS でも ご利用いただけるようになりました。

1ポイント = **1**円として
ご利用いただけます!



石井スポーツ / アートスポーツで
ご購入いただいた商品も

10%ポイント還元

※ポイント還元率はお支払い方法により異なります。
※一部商品により還元率が変更となります。



新規会員募集中 日本写真家協会 会員様専用の
ゴールドポイントカード

12%ポイント還元

※現金・デビットでのお支払時。一部対象外商品ございます。



専門知識豊富な販売員が親切丁寧にご案内いたします!

ヨドバシカメラ

www.yodobashi.com

新宿西口本店
〒160-0023
新宿区西新宿1-11-1
☎03(3346)1010

マルチメディア新宿東口
〒160-0022
新宿区新宿3-26-7
☎03(3356)1010

マルチメディアAkiba
〒101-0028
千代田区神田花岡町1-1
☎03(5209)1010

マルチメディア錦糸町
〒130-8580 (駅ビルテルミナ1・2・3階)
墨田区江東橋3-14-5
☎03(3632)1010

マルチメディア上野
〒110-0005
台東区上野4-10-10
☎03(3837)1010

マルチメディア町田
〒194-0013
町田市原町田1-1-11
☎042(721)1010

八王子店
〒192-0082
八王子市東町7-4
☎042(643)1010

マルチメディア吉祥寺
〒180-0004
武蔵野市吉祥寺本町1-19-1
☎0422(29)1010

マルチメディア川崎ルフロ
〒210-0024
川崎市川崎区日進町1-11
☎044(223)1010

アウトレット京急川崎
〒210-0007
川崎市川崎区駅前本町21-12
☎044(221)1010

マルチメディア横浜
〒220-0004
横浜市西区北幸1-2-7
☎045(313)1010

マルチメディア京急上大岡
〒233-0002 (京急百貨店1・8・9階)
横浜市長南区上大岡西1-6-1
☎045(845)1010

マルチメディアさいたま新都心駅前店
〒330-0843
さいたま市大宮区吉敷町4-263-6
☎048(645)1010

千葉店
〒260-0015
千葉市中央区富士見2-3-1
☎043(224)1010

マルチメディア新潟駅前店
〒950-0901
新潟市中央区弁天1-2-6
☎025(249)1010

マルチメディア宇都宮
〒321-0964 (ラスクエア6・7・8階)
栃木県宇都宮市駅前通り1-4-6
☎028(616)1010

マルチメディア郡山
〒963-8002
福島県郡山市駅前1-16-7
☎024(931)1010

マルチメディア仙台
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡1-2-13
☎022(295)1010

マルチメディア札幌
〒060-0806
札幌市北区北6条西5-1-22
☎011(707)1010

マルチメディア梅田
〒530-0011
大阪市北区大深町1-1
☎06(4802)1010

マルチメディア京都
〒600-8216
京都府京都市下京区京都駅前 京都タワー横
☎075(351)1010

マルチメディア名古屋松坂屋店
〒460-8430
名古屋市中区栄3-16-1
☎052(265)1010

マルチメディア博多
〒812-0012
福岡市博多区博多駅中央街6-12
☎092(471)1010

ヨドバシカメラの
インターネットショッピング
www.yodobashi.com
ケータイでいつでもどこでも簡単ショッピング!
<http://m.yodobashi.com>

お電話で1本ですぐにお届け!
テレフォンショッピング
☎0120-141405
受付時間: あさ10時~よる9時 365日年中無休



街角——八田公子

FUJIFILM X-T2 XF18-55mm F2.8-4 R LM OIS



出雲大社 本殿・拝殿から神楽殿——吉澤士郎
FUJIFILM X-T2 XF16-55mm F2.8R LM WR



momentum.Orii —— 中西 学
FUJIFILM X-T4 XF50mm F1.0 R WR

絶対、描きたい風景がある。



フォトグラファー | 山形 豪 GO YAMAGATA

XF10-24mmF4 R OIS WR

高性能な手ブレ補正機能を搭載し

あらゆるフィールドでの

手持ち撮影を可能にする。

Xシリーズ史上最高性能の

圧倒的なパフォーマンスと、

フィルムメーカーならではの色再現性。

フラッグシップモデルが、

またひとつ進化した。

X-T4

世界最速*15コマ/秒の高速連写と
最短約0.02秒のAFにより決定的なシーンを逃さない。
小型軽量ボディに高性能な手ブレ補正機能を搭載！
快適に高画質な動画撮影も可能。



※APS-C以上のサイズのセンサーを搭載したミラーレスデジタルカメラとして。
メカニカルシャッター設定時。2020年2月26日時点。当社調べ。

●5軸・最大6.5段のボディ内手ブレ補正機能を搭載 ●フィルムシミュレーションに「ETERNA プリチバイパス」を追加
●4K/60P 10bit 動画撮影機能、電子式手ブレ補正機能を搭載 ●新開発の大容量バッテリーにより約500枚の連続撮影が可能

<http://fujifilm-x.com/ja/>

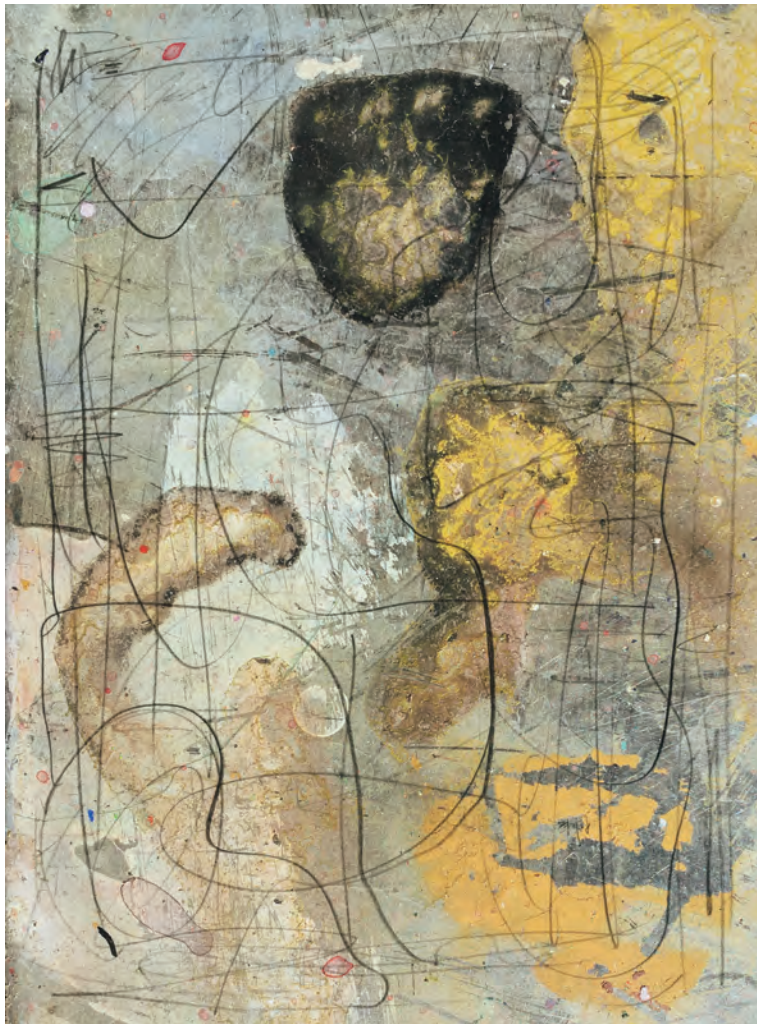


Photo Komatsu Minoru